

令和 2 年度 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
「総点検市民会議」等の実施及び市民意見の収集に係る報告書

令和 3 年 3 月

特定非営利活動法人三鷹ネットワーク大学推進機構

令和２年度 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
「総点検市民会議」等の実施及び市民意見の収集に係る報告書

目次

I	令和２年度総括	1
	「三鷹中央防災公園・元気創造プラザの「総点検市民会議」での討議を経て」	
	立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授・社会デザイン研究所所長 中村 陽一	
II	令和２年度の取り組みについて	3
III	会議等の記録と収集した意見について	5
1	市民参加の記録	5
(1)	講演会・市民会議での意見収集	5
①	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検講演会 ～公共施設を魅力的な場にするために～の開催	5
②	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 総点検市民会議の開催	10
(2)	市民団体からの意見提出と市民意見の募集	18
①	三鷹市体育協会	18
②	ベッセルスポーツクラブ	21
③	市民意見の募集	23
(3)	利用者懇談会からの意見提出	31
①	生涯学習センター利用者懇談会	31
②	体育施設利用者懇談会	32
2	学識参加の記録	34
3	職員参加の記録	49
(1)	職員からの意見収集	49
①	職員ワークショップの開催	49
②	庁内からの意見収集	53
(2)	事務局会議の開催	55
IV	資料	62

I 令和2年度総括

三鷹中央防災公園・元気創造プラザの「総点検市民会議」での討議を経て

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授
社会デザイン研究所所長
中 村 陽 一

2019（令和元）年度から取り組まれている三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検と「総点検市民会議」の 2020（令和 2）年度における活動に取り組んだことで見えてきた、今後のコミュニティデザインへ向けての「論点」を中心に、以下簡潔にまとめてみたい（取り組みの内容や検討結果を反映した今後の基本的な考え方については、別途まとめられている実施報告書や論点整理をご参照いただきたい）。

この総点検自体は、2017（平成 29）年のオープン以来、多くの市民に利用されている同施設について、ハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うことで、施設をより良く活用することを目的としている。

今回、やはり三鷹市での市民参加による「総点検」なのだから、ぜひ 21.5 世紀型の新しい市民参加方法論に何らかつながるような活動でありたいと考え、そのための触媒となりうる考え方として意識したのが、プレイスメイキング、タクティカルアプローチといった方法であった。もちろん、一から施設を建設するわけではないが、それらの方法は以下の意図から有効だと考えた次第である。

すなわち、長期スパンでの構想・計画よりも、市民の暮らしに沿ったショートスパンからの試行錯誤を大切にし、大所高所から「形成」したり「つくる」のではなく、持続可能で内発的な取り組みが重要だと考えた。

そこには、広場・サードプレイス・ソーシャルキャピタル・ネットワーキングといった社会デザインのキーワードとも親和性のある、一気に変革や変動を実現させるのではなく、たとえばコミュニティデザインを積み重ねていった先に新たなデザインを実現するような考え方を基本に据えたいという思いがあった。つまり、建築物や建築空間を、その機能や役割、そこに行き来する市民の関係性から見ることによる地域や社会（課題）との連結可能性を追究しようとしたのである。付け加えれば、逆に地域や社会（課題）の側から照らし出されるものもあると考えた。

既存の考えや、いま計画にあがっているものは可視化できるが、まだ見ぬものやこれから俎上にのせられるものについては、上記の方法論による創造力／想像力の「引出し」が必要ではないかとも考えたのである。

そこから、「オープンであること＋つながり（へ向けて開かれていること）＋ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」への仕掛けとして、コミュニティや社会の課題との出会いと連結が生まれる方向として具体化したいのは以下の4つの方向性である。

①複合施設から、諸機能融合施設へ、②ゆたかな場づくり（プレイスメイキング）へ向けての継続的改善、③21・5世紀の市民参加の推進、④市民知と職員参加の融合

まず、①については、スポーツ・子ども発達支援・総合保健・高齢者福祉・生涯学習・総合防災、そして「三鷹中央防災公園」という7つの機能の複合施設という特性を活かしながらも、フロアごとの活動の相互連携による諸機能融合施設をめざすことを考えたい。

②については、1階や地下1階、駐輪場や公園など、多くの人が利用する「共有スペース」において、ゆたかな場づくり（プレイスメイキング）へ向けて継続的な改善に取り組むことである。そこでは、「居心地の良い場所」として市民に親しまれるサードプレイス性の追求をめざしたい。

③については、利用者・市民の参加により、「魅力的な場づくり」を進め、多くの市民の利用はもとより、利用の質を深めていくアイデアを生み出すための「ウォークショップ（仮称）」など市民参加の具体的な仕組みを実現していきたい。

④については、市民の知恵と助言者会議等の有識者の助言を融合させつつ形にする「市民知」と職員参加による活動との融合を目指すことが肝要となってくる。

最後に、上記を推進するための調査（インタビュー、フィールドワーク）、セミナー、ワークショップ等の実施はもちろんだが、それらをふまえ、並行させつつ、明解な方向性を議論し打ち出せるダイナミックな「場」づくりが必要ではないかと考えている。大学や研究者が関わってのたんなる調査報告で終わりではなく、実践的なコミュニティ・オーガナイズのための場が立ち上がってくるそのときにこそ、バージョンアップした「三鷹らしさ」が可視化されるときが来ると、私見では感じている。

II 令和2年度の取り組みについて

1 市民参加

(1) 講演会・市民会議での意見収集

①	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検講演会～公共施設を魅力的な場にするために～の開催	《第1回》 令和2年12月15日（火）19:00～20:30 「プレイスメイキング」という考え方について 《第2回》 令和2年12月18日（金）19:00～20:30 公共施設の「ソーシャルデザイン」を考える
②	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 総点検市民会議の開催	令和3年2月23日（火・祝）13:30～16:30 プラザをより良く活用するための手法や今後の市民参加について

(2) 市民団体からの意見提出と市民意見の募集

①	三鷹市体育協会	令和2年7月1日
②	ベッセルスポーツクラブ	令和3年3月末
③	市民意見の募集	令和3年2月19日～3月12日

(3) 利用者懇談会からの意見提出

①	生涯学習センター利用者懇談会	令和3年3月25日
②	体育施設利用者懇談会	令和3年3月25日

2 学識参加

①	令和2年7月1日（水） 午前10時～11時	立教大学 中村陽一教授 現状確認と今後の進め方について
②	令和2年7月1日（水） 午後1時～2時	ファシリテーター 青木将幸氏 バーチャルとリアルを組合わせた市民参加手法について
③	令和2年8月5日（水） 午後1時～2時	立教大学 中村陽一教授 ゲスト：泉山壘威氏（都市戦術家） タクティカルアーバニズムとまちづくり
④	令和2年8月7日（金） 午前10時～12時	立教大学 中村陽一教授、神戸大学 槻橋修准教授 タクティカルアプローチ～タクティカルアーバニズム、プレイスメイキングの手法について～
⑤	令和2年9月18日（金） 午後3時～4時	立教大学 中村陽一教授 今後の進め方、講座の持ち方について
⑥	令和2年10月1日（木） 午後1時～3時	立教大学 中村陽一教授、ファシリテーター 青木将幸氏 総点検市民会議のあり方について
⑦	令和2年10月21日（水） 午前10時30分～11時30分	立教大学 中村陽一教授 コロナ禍対応によるオンライン中心の取組みについて等
⑧	令和2年11月20日（金）	ファシリテーター 青木将幸氏

	午後4時半～午後5時半	市民を対象とした講演会の開催について
⑨	令和2年12月3日(木) 午後7時～午後8時	立教大学 中村陽一教授 12月予定の講演会や助言者会議の開催方針について等
⑩	令和2年12月15日(火) 午後5時半～6時半	立教大学 中村陽一教授、神戸大学 槻橋修先生准教授 ファシリテーター 青木将幸氏 総点検市民会議のあり方と来年度の展開について
⑪	令和3年1月12日(火) 午後3時～4時	ファシリテーター 青木将幸氏 職員ワークショップの持ち方について
⑫	令和3年1月29日(金) 午後7時～8時	立教大学 中村陽一教授 2月予定のワークショップの開催方針について等)
⑬	令和3年2月19日(金) 午前8時半～9時	ファシリテーター 青木将幸氏 総点検市民会議 当日の運営と資料等の確認

3 職員参加

(1) 職員からの意見収集

①	職員ワークショップの開催	令和3年1月19日(火) 午後1時半～4時半
②	庁内からの意見収集	令和3年2月～3月

(2) 事務局会議の開催

①	令和2年6月17日	コロナ禍における総点検の進め方について
②	令和2年6月30日	総点検市民会議の進め方について
③	令和2年7月14日	デジタル市民参加・ミニワークショップの手法検討
④	令和2年9月1日	「縦連携講座」「職員ワークショップ」の手法検討
⑤	令和2年11月4日	連続講演会の内容検討
⑥	令和2年12月8日	講演会当日運営について
⑦	令和3年2月9日	総点検市民会議開催に向けた事前打ち合わせ
⑧	令和3年3月10日	報告書のまとめ方について

Ⅲ. 会議等の記録と収集した意見について

1 市民参加の記録

(1) 講演会・市民会議での意見収集

①三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検講演会

～公共施設を魅力的な場にするために～の開催

ア) 開催概要

【第1回】12月15日(火曜日)19時～20時30分

◆内容:「プレイスメイキング」という考え方について

◆講師:神戸大学大学院工学研究科 槻橋修准教授

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 中村陽一教授

主催者挨拶:河村孝三鷹市長

◆タイムスケジュール

19:00～19:10 市長挨拶

19:10～19:50 槻橋准教授講演

19:50～20:30 中村教授・槻橋准教授対談・質疑応答

◆参加者

・会場参加 8人

・オンライン 32人

・合計 40人

【第2回】12月18日(金曜日)19時～20時30分

◆内容:公共施設の「ソーシャルデザイン」を考える

◆講師:立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 中村陽一教授

河村孝三鷹市長

オンラインファシリテーター:青木将幸氏

◆タイムスケジュール

19:00～19:40 市長・中村教授対談

19:40～19:50 質疑応答

19:50～20:20 ディスカッション

《会場》中村教授・河村市長

《オンライン》青木氏・大朝総点検担当部長

20:20～20:30 共有と振り返り

◆参加者

・会場参加 15人

・オンライン申込 44人

・合計 59人

イ) チャットで出されたコメント等

《12月15日》

1	PLACE MAKINGのコンセプトについて、先生のお話から理解できましたが、三鷹の元気創造プラザのように、既存のところでそれをどのように具体的に応
---	--

	用できるのか、教えてください。
2	三鷹市はPLACE MAKERとタイアップして防災公園を含めて、今の場所が市民にとってより良いPLACEとなることを検討しているのでしょうか？
3	Swanston Street の取り組みについて、道路や交通については、さまざまな利害関係が出てくると思いますが、どのようにして合意形成していったのでしょうか。
4	市民主導でよりよいPLACEにしたいと思いますが、是非、先生方のアドバイスをお願いいたします。
5	是非、OPEN SPACEとなるような場になることを期待しています。

《12月18日》

6	PLACE MAKINGのコンセプトについてよくわかりました。地域住民の気づきが大切ですね
7	ウォークワークを実践したいものです。(ファシリテーター補足：ワークショップならぬ歩いてまわるウォークショップですね。)
8	複合施設としてできたのであれば、各フロア間の融合が大事だと思います。現状では、バラバラのような気がします。
9	利用者も自分が利用したいフロアにいくだけで、その他の施設についてあまり知っていないのでは？
10	頭で考えられるだけでなく、実際に今までと違った目線で見ることが大事だと思います。
11	三鷹に住んで6年目ですが、スポーツジムしか使ったことなく、他の施設をほとんど知らないです〜。ウォークショップ！
12	まずはどこに何があるかを知ることから初めて見ましょう！！
13	相互交流のウォークショップを初めてみたらどうでしょうか。
14	今日はオンラインだったから参加できました。ニューノーマルライフには、わざわざ足を運ばずともコンタクトできる「プレイス」も考えてもいいのでは？リーモーター参加がきっかけに、実際にその場に行って、新しいつながりを作れます。
15	(市長の「総点検は政策の見直しの機会。単なるクレーム&回答ではなく、大きな政策変更も視野に」という発言を受け)その時に、ウェルカムな場がぜひ欲しいですね。
16	普段なかなか元気創造プラザに足を運びにくい方にリモート参加を足がかりに、リアル参加につなげていく試みが大切では。
17	元気創造プラザが人とのつながりを深める場となることを期待しています。
18	企画の開催はとても良いものだと思いますが、先程フロアがバラバラと言う話があったので、まずは内部での連携強化などを優先すべきだと思いました。企画が一人歩きしているように思えます。
19	市主導ではなく、市民主導でのウォークショップから始めたら。会合だけでは進歩はないと思います。
20	三鷹に来て、色々な市民グループが色々な活動、イベントを開催していますが、すべてを一望できるようなサイトが欲しいです。
21	どこで何をやっているのかが市民にとってわかりにくいのでは？

22	利用者が自然に交流が出来るオープンカフェ的なスペースがあるといいのでは。外の公園にあるとよりいいと思います。
23	なぜ、防災公園・プラザが竣工して、3年過ぎ、魅力的な場に見直さなければなら ないのでしょうか。今の設備に問題があると推測されます。
24	市としての方向性が今一つわかりません。
25	実は元気創造プラザに行ったことがないのです。横は通っているのですが・・・。 今度行って確認します。
26	現公園や施設を造るにも、市は市民の意向を設計者に伝えているはずですが。調理教 室の問題は、市が設計者に正しく伝えていない結果であり、市民・市・設計者・施 行者の意志疎通をしっかりとすべきで、責任分界点を超える時には、申し送りをして いるはず、あれば公開し、論点にすべきと考えます。なぜ意にそわない施設になっ たのは、真剣に直視し、本質を究明し、再発しない様に、フィードバックをする事 必要と考えます。
27	ロビーの使い方、たむろってられる場、そういう交流できる場が入った場所にあ るといいと思います。
28	総点報告書の内容が十分に、まとまっていないし、総点検の哲学が感じられない。 現設備には、将来を見据えている思想が根底にあるはずですが。総点検の起点にする 事が必要と考えます。何も考えず、建設したのでは、コスト負担、リスク負担、損 失負担する、三鷹市民、利用者は堪りません。市長は、市民に具体的に示す事が責 務と考えます。
29	階段何かに使えないですかね。京都駅の大階段みたいに…でもちょっと急で危ない 感じですかね。
30	「成長する施設」には未来があり、これからどんどん変わっていけるという可能性 が感じられます。
31	今更、変える可能性は、一階しかないような気がします。
32	プラザ内は各フロアで多世代の方が利用する施設だと思います。
33	その多世代が交流できる場があると良いと思います。
34	外から見た印象は公園みたいな感じで面白いとは思っております。
35	元気創造プラザがもっとオープンな施設ができると他世代交流ができるのではな いですか。
36	交流できる場も交流しなくてもいい場もどちらもがあると、多様な市民に対応でき るのかな？と思っています。
37	行ったことがない原因を考えてみたのですが、あまり直接関係することがないよう です。
38	もう一つは三鷹市の外れに住んでいるためもあるようです。
39	いま探してみましたが、市民講座に行ってみようかなと思ってます。でも日時の問題 があるようで。どうしようかと思っています。
40	住んでいる地域によってはコミセンがあるから行かない人も入るのでは？
41	防災と言っても、避難場所は外だけです。
42	自宅から、元気創造プラザまで歩いて 30 分くらいかかります。心の距離が遠く、

	明確な目的がないといけないですね・・・
43	建物の中には避難できません。
44	ジム利用でのみ伺ったことがあります
45	コミセンとかぶらないような魅力的な企画ができないのでしょうか。
46	三鷹市には市民協働センターやコミセンや色々の場が点在。
47	私は、市民講座を充実してもらいたいと思います。
48	私は、桑子教授より、社会的合意形成を学びました。市民が主体に取りまとめる事が出来ればうまくいくと思います。
49	現在市民講座はリアルだけなので、リアルと同時にオンラインでもできないか。
50	市民講座は今日のように、オンライン受講できるものがどんどんできると、参加出来る方が増えるのではないのでしょうか。
51	その主導権を、様々な市民活動の場を連携できる拠点にしてください。
52	今はコロナなのでオンライン必須ですね！
53	オンラインになじめるようにそのためのお助け講座を開催したらどうか？
54	市民講座アーカイブ配信はうれしいです。
55	子ども向けの教室もあるし、芝生の広場含めてコロナ前にはイベントもあって結構よい感じではない？？芝生好きです。
56	コミセンの WIFI 化を促進して下さい。色々な市民の場と連携できますね。
57	お昼にキッチンカー（屋台村）が集まったり、おいしいコーヒーやスイーツのお店が日替わりで出店されたらうれしいです。
58	まずはカレーとラーメンかな。
59	東京国際フォーラムではたくさんのキッチンカーが昼に集まっています。三鷹もそうしたら。コロナで困っているお店の助けにもなるのでは。
60	恥はかき捨てや、内向きな姿勢を外向きにかえ、視点を出来るだけ遠くに置く事が、いろいろなアイデアが出ると考えます、私は、かつてのプラン 21 の再現を希望します。
61	でも、元気プラザには目的がないと行かない場所です。
62	キッチンカー目当てにいくのはどうでしょうか。
63	若者世代が楽しめる事があると良いですね。
64	市民が自由に関われる事が大事だと思います。
65	三鷹に暮らす外国人も視野に入れていただき、英語等の案内が充実すると利用する人が多様化して、交流も広がると思います。
66	老人だけでなく若者にも興味を持てるものがもっとあったら。
67	居心地がいい場なら自然と人は集まるんですよ～。
68	MI SHI OPと協調したら。
69	チリフェスティバルいいですね。
70	今年はコロナの影響でプラザでの農業祭やバザー、各イベントが中止になりました。対策をとりつつ、外の防災公園を有効利用してのイベントがあるとプラザ内にも訪問する機会が増えるのでは。
71	サルサダンスだ～

72	チリといえばアルマ望遠鏡があります。
73	今日はみなさんのご意見を聞きたいと思って、参加しています。町会での場づくりのヒントにさせていただきます。ありがとうございました。町会でオンライン勉強会、またオンライン講演会も開催し、アーカイブ視聴も実施しています。町会でもできることなので、ぜひ、アーカイブ視聴など、市もやっていただきたいですね。
74	早くコロナが収束してほしいです。
75	2月もオンライン参加 OK にして！

ウ) 参加者アンケート

《12/15》

- ・つまらなかった
- ・もう少し時間があると良かったと思います。
- ・海外の事例などがもう少し詳しくお聞きできたらと思いました。
- ・複合公共施設の元気プラザをメイキングプレイスにするとしたら、一階の活用しかイメージできません。
- ・テーマが大きいので時間はもう少し長めの設定でよかったのかなと思います。

《12/18》

- ・オンライン参加しましたが、もう少しいろいろな意見が出るかなと思いましたが、特定の人だけで残念でした。個人名が出るチャットはやりにくいと思った方もいらっしゃるのかな、スマホではやりにくかった方もいるのかな、などと思いました。少人数のブレイクアウトルームを少し入れても良かったのかもしれないね。
- ・ファシリテーターの方が河村市長の話をまとめてくださったり、参加者に呼びかけながら進めてくださったので、良かった。
- ・オンラインのワークショップは内容がひどかった。
- ・"第1回目の槻橋先生のお話はとても興味深く、第2回ではどのような進め方をされるのか楽しみにしていたが、オンライン参加のチャットでの意見交換はあまり意味がなかったように思う。Zoomの良さを活かしきれず、ファシリテーションに問題があると思った。最初はビデオオフだったのを、途中でオンにするよう誘導するのは難しいとも思った。どのタイミングでオンにすればいいか、他の方がどうするのか、みなさん、様子を見ていたと思う。
- ・ブレイクアウトルームを活用し、参加者の意見をもっと拾うべきだったと思う。全体への顔出しは難しくても、ブレイクアウトルームであれば、顔出し OK の方は多かったのではないかな。それぞれのブレイクアウトルームにスタッフが入って、進行をしてもらえば、もっと実りある意見交換の時間になったと思う。
- ・市民の声を、あらゆる手法で聞いていこう、という市の取り組み、今後も楽しみにしています。"
- ・アーカイブなどがあれば視聴したいなと思いました。

②三鷹中央防災公園・元気創造プラザ 総点検市民会議の開催

ア) 開催概要

- ◆ 日 時：令和 3 年 2 月 23 日（火曜日・祝日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
- ◆ 内 容：三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検について、プラザをより良くしていくための手法や、今後の市民参加について話し合う。
- ◆ 方 法：オンラインワークショップ及び人数制限をした会場でのパブリックビューイング参加
- ◆ ファシリテーター：青木将幸氏
- ◆ 参加者：オンラインワークショップ 13 人
会場でのパブリックビューイング参加 1 人
スタッフ 14 人
- ◆ タイムスケジュール
12:00～13:00 接続や使い方に不安のある人の確認時間
13:00～ 参加者ログイン開始
13:30～14:20 【第 1 部】
冒頭ご挨拶・趣旨説明
アイスブレイクを兼ねたオンラインワークショップへの参加ガイダンス
※「チャット」や「ブレイクアウトルーム」などの zoom 研修を兼ねる
14:20～14:30 《休憩》
14:30～15:20 【第 2 部】
15:20～15:30 《休憩》
15:30～16:30 【第 3 部】
- ◆ 中村教授からご挨拶と趣旨説明
プラザのような施設の総点検を市民参加で、というのは三鷹ならではの取り組み。行政だけで決めるのではなく、どう活用するかも含めて市民のみなさんのアイデアをもとに、考えたい。この間の検討で見えてきたこととしては、
①プラザは 7 つの機能を併せ持つ複合施設。フロアごとに独立しているように見えるが、もうすこし連携し「融合施設」にして行きたい。
②さらに使いやすい施設にするための工夫や改修も必要。とりわけ共有スペースの活用でのプレイスメイキングができないか。どの人にとっても居心地のよい場所にしたい。
③市民参加でさらに推進して行く。魅力的な場は誰かが勝手に定義するのではなく、皆さんで話して行く。アンケートで集まった声や、市民参加でアイデア出しをして、ワークショップやウォークショップ（歩きながら話す）等を開催して行くことが大事だと考えている。

イ) チャットで出されたコメント等

1	wifi はとても助かっています。ただ、1 時間で切れるので、zoom でオンラインとつないでハイブリッドで実施しているのでとても困っています。3 時間の使用枠なので、ぜひ長めに設定をお願いしたいと思います。
---	--

2	メインアリーナで大会があると、小体育室が更衣室や控え室に使われてしまい、その時は使用できないのでなんとかしてほしい。
3	7つの機能とは？そしてそれが複合施設であることのメリットは？
4	スバルの施設利用の際、イスの申請はWebからできず、紙での申し込みが必要です。Webでの申請にできると嬉しいです。
5	スバルの施設利用の際、備品は紙ベースでの申請となるのはどうして？
6	施設の抽選は10日べ切で15日発表ですが、発表後次の月1日以降しか次の予約ができません。15日の抽選後すぐに空いているところを公表し、予約できるようにしてほしいです。
7	私は、題意である事は、市民が赤ちゃんを抱いて、触って、直接温もりを感じて、いろいろな話を交わしてからでも良いと考えています。
8	メインアリーナの東八側の観覧席が、いつもガラガラでもったいないなと感じています。大会でメインアリーナをすべて押さえてしまうと観覧席も一般の方が入りづらく心苦しいです。フリー観覧席などにして、柔軟に使えんといいいですね。
9	1階受付の料金支払い機のそばに荷物置き場が欲しいといったところ、設置して頂きたすかっています。このような小さなことを言える意見箱を設置して頂けると幸いです。
10	できれば学習室5または7にも、固定のプロジェクターを設置してほしいです。
11	意見箱あるのですが、場所が分かりにくいのかもですね。やはり場所のわかりやすさは、「ご意見歓迎」の姿勢を示すことにもなりますよね。
12	災害時の事を体験し、不備を平時に確認する等、市民主体の企画が出来たらいいし、2日間泊まりこむ等訓練も兼ねて年間2回くらい出来ないか。
13	市民がコスト・リスク・損失を負担している実態があります。行政は、運営しているが利用者あ市民である。
14	市民参加はまっていないで、市民サイドからつくってゆける機会もあると思います。どんどん提案して、場づくりしてゆきましょう
15	魅力的な施設になるよう期待します。

ウ) みんなの議事録みえるぞシート

※ブレクアウトルームごとの議論を記録し、他のブレイクアウトルームの内容を共有するために、エクセルシートを活用した「みんなの議事録みえるぞシート」を共有した。

【第1部】＜テーマ：防災公園&元気創造プラザについて ひとこと、ふたこと＞

16	利用者が増えており、多世代にわたって利用されています。
17	情報がもう少しもらえると嬉しいです。
18	1部屋が1講座で運営されている。利用者の増減に対応できるように、取り外し可能なパーテーション等に改修を希望します。
19	子ども食堂の手伝いをしています。狭い場所で弁当を作っている。プラザの調理室を使えないか。
20	市民運営室を作ったらどうか。
21	社会教育会館の総合コースに参加しました。中でどのようなことをやっているのか

	が、見えにくいので情報があれば、行きやすいです。
22	総合コースで学習室でオンラインを使用しているが、人によっては見えにくい。システム上の問題もある。
23	学習室は入り口が1か所なので防災上問題があるのではないか。2か所にした方がよいという意見もある。
24	ガラスが割れるようなことはないでしょうか。
25	プラザは4歳。まだまだこれから伸びる部分がある
26	申し込み方法→予約状況がわからなくてスケジュールが組みにくい
27	大会で使用しているのに観戦等しにくい空気がある。団体の荷物があずけられない
28	どこでどういう活動をしているのか電光掲示板等で表示できないかサブアリーナはドア開けないと覗けない。もっと親しみやすいといい。
29	デジタル掲示板：画面の切り替わりがあり知りたい情報がわからない。地下一階のものは地下二階へ。トイレが少ない
30	防災拠点としての機能を知れば使い方も変わってくるのでは。市民の意識が変わればいいのかと思う。
31	レストランがあればいいと思う。まず足を運ばないと知ってもらえない。広場にオープンテラスほしい。
32	4階調理室を有効活用できればいいのでは。既存のスペース
33	ワンコイン講座の申込フローが弱い。講座申込システムについて何度も氏名を入力するような仕組みである。
34	プールに通うのに子どもの付添いが厳しい。(大人一人につき子ども一人)
35	トレーニング室が無機質な気がします。改善できるといいなと思います。
36	共有スペースがあまりない。メイン、サブの廊下、開けている場所で話をしているため、密になっていることが心配。
37	団体が活動を継続するために物販ができるといいです。
38	子ども相手のボラティアに参加。総合コースを受講。子ども相手のイベントを共有スペースで行っている。もっと良い使い方を検討したい
39	共有スペースの使い方について。使われないのはもったいないなと思います。
40	8月頃に、共有スペースで話しをしていたら、ソーシャルディスタンスをとっていたにも関わらず、ここでは話をしないでくれと言われて、外に出されてしまった。
41	コロナになってからは、思うように使えない。お弁当を食べる場所も無い。雨の日も困る。屋根の下で立って食べたこともある。
42	夏は、外にテントをはるなどの配慮があっても良いのでは
43	コロナだから今は色々我慢して無理をしている部分がある。コロナが収束した後の可能性をこれから考えたい
44	地下1階へ降りていく階段と、通路が普段、人通りが無くもったいないと思います。
45	共有スペースが、多世代の人と交流できる場所にしたら面白いのではないのでしょうか。同時に、プラザの情報が得られる場所に。
46	今の用途は待ち合わせにしか使えない。だだっ広い。イスの配置も集まって話す形になってない。コロナの前は自販機の部屋の方がにぎわっていた。1階の雰囲気がか

	タイ。受付があるので仕方ないけれど、見られている感じがある。
47	一人でアリーナを見ている人に話しかけたくなくなってしまう。図書館のような行きやすい場所になればいい。
48	図書館機能が一緒にならなかったのは残念。図書館が作れなくても、パンフレットだけではない資料が手に取れる場所に
49	仕切りがあった方が良いのでは？ちょっとしたスペースが作れるように。社教会館は、図書館があったので遊んでいる子供たちとの関わりを持つことができたが、今の共有スペースは、立ち止まれるような場所になっていない。
50	集まる場所って、なかなかない。協働センターのようなテーブルがあって会話ができる場所が無い。

【第2部】＜テーマ：中間とりまとめを聞いて、共感できる点、気になった点は？＞

51	共有スペースの居場所は目的を持った人以外も利用できる場所にする、ということ。7つも機能があったということも初めて知った。
52	自分が行くところ・目的が限られている。共有スペースが目的地へ行く道になってしまっている。コーヒーを立ち飲みできる、子供があそべる等吹き溜まりのようなワイワイした場ができるといい。利用者同士の交流も生まれるのでは。
53	職員も融合できていないので課題。
54	プラザ祭りのような全体の祭りがいいですね。各センター合同で行う祭りがあるといい。
55	喫煙所が交流スペースになることもあるが、同様に井戸端会議ができる場所。必然性があり、＋アルファのある場所。受付前やモール等に屋台とか！？キッチンカーが芝生に並ぶといい！食べるスペースが必要。
56	融合、と一言と言っても難しい。興味のないことを知ろうという意欲をかきたてるテーマが必要。
57	当日の講座について、サイネージではなくもっと身近に感じられる情報発信方法でちりばめられているといい。
58	職員同士の融合をもっとすべき。
59	小体育室、障がいをお持ちの方の教室で使用。市民大学の総合コース受講。そこから派生した自主グループの活動。
60	バレーボールの活動、スポーツ推進委員としても活動
61	生涯学習の関係で活動"共感できる点基本的な考え方に共感。利用者懇談会から出た意見について迅速に対応できている。(WIFI、駐輪場、学習室) 意見もらうことで職員で気づかない点がわかる。アリーナの倉庫の使い方の改善。
62	※バスケットゴールの出し入れ等。自販機コーナー等で一息つきたいときに空いていない時が多い。利用者数に対し席・スペースが少ない。少ないスペースに対し、エントランスや地下一階ががらんとしている。大規模な改修を行わなくても有効的なスペース活用が多い。意見箱がわかりにくい。柱の陰に隠れていては意味がないので改善する必要があるのではないか。意見箱は各フロアに置くといいのではないか。利用者がどうすれば意見を出しやすいか考える必要がある。他自治体と比べて改善できる点は？プラザとコミセン等との使い分けをする必要があるのでは？

63	複数の機能を持っているが、積極的に交わらないと融合できない。
64	問題点の洗いだし、改善も必要だが、市民が運営に関わるのはできないか。市民が直接意見を利用者に聞いた方がより良い話が聞けると思う。
65	ご意見箱の場所は分かるが、もう少し目立たせた方が良い。
66	プラザを色んな人に知ってほしい。まずは利用目的に合った施設を利用しに来てい る。他の施設を利用したいというのは次のステップである。どんな方が利用してい るのかを職員が理解することが大事。その上で、時間や場所の使い方を考えていっ た方が良い。また、利用者同士で話す場があると良い。
67	子ども食堂を2、3年関わっている。現在は狭い調理場でやっているのですが、プラザ の調理場が利用できると良い。
68	今後は、防災公園・プラザを子どもの様に考え、遊んだり、学びながら、互いに輝 く、将来を描く事が出来たと考えています。みんなで、ぜひ徒党を組んで、遊びに行 くのも良いと考えています。なお、市には、伯父さんとして、都市再生部や公共施設 管理課、防災課等があり、世代交代も行っており、付き合う事が出来ます。せっかく だったら、この機会に。市民がプラザの見たいところをリクエストしたりして、内 部を見て回る事が出来るツアーが出来ればおもいます。市民が肌で感じる事が重 要ではないですか。市民が公園やプラザの評価が直接出来ると良い。
69	災害時の事を体験し、不備を平時に確認する等、市民主体の企画が出来たらいいし、 2日間泊まりこむ等訓練も兼ねて年間2回くらい出来ないか。要望がたくさんある。 スピーディーに対応している。大かかりなワークショップをしなくても、日ごろの 意見を吸い取る仕組みづくりが必要なのでは。申し込みから支払いまで、一度にで きるようにしてほしい。プラザでは体操グループに参加。ポッチャで地下のアリー ナ等を使用している。電子マネーで支払えればよいのと思う。レストランがある といい。食事する場所が遠い。意見を聞いてくれる場、総点検をしようという姿勢 がうれしい。開館当初、表示が見づらいという意見を言った。色々に対応してもら った。一階の電子表示が見づらい。領収書が小さく、日付がなく、分かりづらい。音 楽の演奏会をしてほしい。楽器の演奏はどこまでできる→完全防音ではないため、 一定の制限がある。ジャンル等は個別にご相談を空気喚起ができています。交流がで きる機能がもっとあればよい。防災×スポーツなど協同してできる事業があればよ いと思う。人と人との融合ができるようになるといいなあと思う。
70	まずは、知り合うことから大切。オフィスの中で知り合うスペースがあるように、 そんなスペースがあればいいなあと思う。昔の喫煙スペースのような。生涯学習セ ンター、社会福祉協議会の受付前の談話スペースのようなものが総合スポーツセン ターにもあればよいと思う。

【第3部】＜テーマ別意見交換 せっかくなので、こんな市民参加の場をつくろう！＞

《テーマ1》共有スペースのどこをどう変えると居心地よくなるか？

71	共有スペースが少ない。席数がすくない。東モールはあれだけのスペースがないと 防災上問題があるのか？
72	消防法上は避難経路。イベント時に一時的に利用は可能。年中店を出すというのは、 消防等に許可を得る必要がある。

73	メインアリーナを眺めながらお茶ができるといい。それほどスペースも必要としないのでは。
74	目的もなく集まるのは難しい。賑わいを持たせる工夫必要。
75	ビジュアル系の街頭芸人がくるとか？キッチンカーも曜日ごとにローテーションがあるといい。
76	場所にヒットするお店の形態で試してみる。
77	公園内の植物が少ない。環境問題を考慮すべき。
78	レストランが欲しい。市民主導で情報コーナーを使ってカフェのような形態にできないか。情報コーナー兼カフェであれば情報を取りに行きやすい。
79	予約の必要がない小さなスペースを作れないか。地下1階のスポーツエリアで打ち合わせができる場所が欲しい。
80	公園に緑がもっと欲しい。座る場所が少ないので、外で食事ができるようなスペースが欲しい。休憩コーナーは、スペースが足りない。情報コーナーと休憩コーナーをつなげるといい。
81	4階の交流スペースはよい。スポーツにはそういう場所がない。地下1階がスペースが余っているように見える。
82	カフェ的なスペース、市民運営でできるといい。
83	現在のパンやお菓子の福祉団体のような販売を増やすといいのでは。各センターでのイベント等を情報共有できるものがあるといいのでは。

《テーマ2》市民が運営に関わるしくみをつくろう！

84	プラザは4歳くらいで、将来を期待しています。んでも興味を持つ頃です。みんなで、得意分野を見つけ、その才能を引き出せたらと考えています。
85	参加している生涯センター利用者懇談会では意見を反映してくれている。ほかの分野ではあるのか。あるのなら横断的なものはできるのではないかな。スポーツ分野はある。会議も横断的にやって融合していくのはいいのではないかな
86	市民が会議等の企画運営もできないか。※子供を集めてなど 市が運営すると受動的になってしまいがちになってしまうのではないかな
87	生涯学習センターの運営等を一部市民で実施できないか。
88	事業の実施にあたって積極的に実行委員会を組んでいくのはどうか。防災訓練等を市民と一緒にやる。施設全体の共通のテーマを軸に進めていくのはどうか。
89	この建造物は、当初「新川防災公園・多機能複合施設（仮称）」として、清原市長主導・企画部で、計画されました。三鷹市の構想が具体化し、内容が議会の承認を得た時点で、今の「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」となった経緯があります。
90	言いたい事は、三鷹市民全体のものです。従って、市民側から見て、価値を評価している面があります。利用者か市民を説得できる視点を持つ事。今後必要になります。市民が価格が決めるとなる。従って責務も発生する。今稼働率が29%くらいにさがっております。
91	週に二回程度市民運営室をつくってみるのはどうか。（大学生、企業等）
92	まずはイベント単位で市民が参加できるようにできれば
93	行政で行っていることをどの程度市民ができるか

94	懇談会の横断
95	イベント単位での参加
96	市民運営室を立ち上げて、行政と協力してイベント等を運営していくのはどうか
《テーマ3》「ウォークショップ」するならどんなメンバーで、何をみたい？いつごろやる？	
97	開館当初は見学会があったが、今はないため定期的に見学会があるとよい。
98	1階や3階は普段いかないため、該当階の利用者にもお話を聞いてみたい。
99	ウォークショップは、毎回ただ漠然と歩こうではなく、テーマを決めて回ってはどうかと思う。
100	休憩スペースで会話をする機会があったが、その方は2階しか行かないため、4階、5階が何ができるスペースであるのか知らないようであった。様々な人を巻き込み、ウォークショップをととしてプラザを知ってもらってはよいのでは。
101	市民のその階のヘビーユーザーが中心になって生の利用者の声を発信できるメンバーがよいと考える。
102	ウォークショップの有り方について、どんな声でも批判から入るのではなく、アイデア次第で課題が改善できるのではないかと思う。
103	玄関に入ったらラインが引いてあって例えば青いラインを通っていけばどこどこにいけるとか一目瞭然になっているとか面白いと思う。
104	低体力者の方向けに誰かがアバターになって、「どこに行きたい」という声を受けて実際その場所にいく方法とか面白いと思う。

《テーマ4》プラザ全体で交流するための企画をつくろう

例：プラザまつり？年に一度の防災フェス？

105	7つの機能を融合させるため、人と人が交流しないと融合できないと思う。スポーツ×防災とか、子ども×スポーツとか小さな交流を重ねつつ、自然な流れから全体のプラザまつりへつなげていくのはどう？
106	まず、プラザまつりをやってしまうのはどう？そもそも、ブレイクアウトルームのスタッフが既に縦わりになっています。プラザまつりが、縦割り打破のしかけになるのでは？スポーツフェスティバルに乗って、他の分野も参加してみるのはいかがでしょうか？職員の意識づけのなるのではないか？
107	昔の喫煙ルームのような、場所？
108	利用者同士の交流が、図れるようになるといい。防災というのは一つのきっかけになるのでは？
109	協働しましょう！といって一緒にやるのではなく、気軽な会話ができる場所で、今度、こんな事をやろうと思っているという会話から、じゃあ一緒にやろうという発想が出ると良いなと思う。
110	オンラインの利点を活かして、色々な職場の人たちと話ができる機会を。
111	プラザ内でお互いに情報を知っているだけでも意味がある。お互いに相乗りした方が良い。
112	防災をテーマにしたら、人は来ないので、コミセン祭りの大きい版をプラザ祭りとして行うのはどうか？年に何回か。
113	祭りの相乗りをするために、普段から職員の交流をする必要がある。

エ) 参加者アンケート

- ・もう少し市民の参加者が多いとよかった。事前に何をテーマに話し合うのかももう少し具体的に知らせてほしかった。
- ・ファシリテーターさんの進め方が、素晴らしいと思います。参加者皆さんの意見も改めてなるほどと気づきがありました。
- ・"リモートでの参加を経験できたことが良かった。
- ・自分の言いたいことを伝えるのが難しい（ポイントが伝わらなかった）とともに、グループによる差がリアル以上に生じる気がした。（人数が少ないことの難しさも）"
- ・元気創造プラザをよく利用しております。今回のような市民の意見を聞く企画はとても良いと思いました。提案の具体化を期待申し上げます。ただ、参加者が三鷹市関連の方が多かったようで、市民の方の参加が少なく少しがっかりしました。
- ・何が実行に移されるのか等、結果報告が聞きたいです。
- ・"市民参加者が少なかったのが残念でした。Peatix からの申込は、慣れていても面倒くさいです。メールでの申し込みなど、もっと参加のハードルを下げてもらえたらと思いました。
- ・職員の方々が多く、ファシリテーションの形でしたが、一緒に意見交換できたのは有意義でした。"

(2) 市民団体からの意見提出と市民意見の募集

①三鷹市体育協会

1	第一体育館時代に比べ、使用料金が極端に高くなっていると感じる。
2	調整会議で予約したもの（市民大会等々大会関係）にいちいち減免書類をださなくてはならないのが厄介
3	旧体育館（第一体育館）時代には、個人ではなくバレーボール連盟の備品類を置いておくことができたのに現行そのような場所がないのが非常に不便である。→体育館を作る前にも話している。
4	サブアリーナの天井の高さが低すぎて試合ができない。高ささえあれば、サブアリーナのみでも試合は可能であったのに残念。政策前に上げていたように高さもあれば色々な種目でもっとたくさん利用ができ調整会議がもっと楽にできたはずである。
5	一度だけソフトテニスで使いましたが、テニスコートのラインがなく、テープで引くのに30分、終わってからはがすのに20分かかる。
6	ネットの高さが規定の1.07mより高い
7	シニアの講習会で日曜日に2面使いたい、他のクラブが優先的に確保しておりソフトテニスで使えない
8	施設間の移動（屋外）が無くなったのは良いことだ。
9	カフェスペースでビールが飲めるようにしてほしい
10	喫煙室がほしい
11	減免の使用料が決まるのが遅い（当日を過ぎても決まらない）
12	陸協ではスポーツセンターの利用は普段はないので特別の不自由は感じていないが、イベントがある時、東八道路側の入り口付近に自転車があふれている事がある。
13	市役所に近い場所に総合スポーツ施設があり幅広く活動できることは良い
14	学習施設や会議室の予約がPCでとれるのは便利だ
15	（財政的に厳しく仕方ないかもしれないが）市民施設として学習室（会議室）の使用料は若干高いように思われるが、妥当であるか？
16	施設を家族で利用し終わった後くつろげるもう少し広い場所を確保できないか
17	学習室など使用料の領収書が経理処理上小さすぎるが、今更改善は難しいのか？
18	駐車場の減免：大会等で終日あるいは連続した区分で駐車場を利用する場合、現時点では一旦出庫して再度入庫しない限り、例えば9時から12時、12時から15時まで6時間利用した場合、最初の3時間のみ無料で後半3時間は30分毎に200円の料金が発生します。連続して利用する場合の駐車料金の減免のあり方について検討していただきたいと存じます。具体的には全額減免する、あるいは連続した区分利用した場合3時間を超える部分の最大支払額は例えば400円とするなどの対応を要望いたします。
19	補足：ジュニア育成の指導や大会などの日は入庫時間が8時半～18時となることが多く、その場合駐車場の支払額は近隣のコインパーキング支払額（支払い限度額）をこえて2600円程度支払うケースも何回か生じております。

20	試合場の開始線・中心線の色修正について：武道場（１・２共）の試合場の試合開始線と中心線（中央に交わるバツ印）については、黄色線が引かれています。剣道連盟としては設計段階においてラインの色について「全日本剣道の規則」に則り図面を提示して依頼しております。財団においてもしかるべく専門部署で対応いただく旨回答を得ていますが現状はまだ修正されておられません。速やかな対応を要望いたします。
21	利用申請方法：利用申請や減免申請については窓口書類を提出する方法に加えて、事務室宛のインターネットでの申請についても許可していただきたいと思います。
22	2019 年度まで団体カード登録によりインターネットより総合スポーツセンターの予約ができたが、2020 年度は団体登録が見送られている状態である。もしインターネットからの申し込みができないのであれば前述のようにメールによる利用申請を受付していただきたく要望いたします。
23	係員の入場時間の柔軟対応：大会開催時の開館時間について大会開催については10分でも良いので入館を許可していただければありがたいと存じます。
24	複合施設になって良かった点：剣道大会の審判控室の確保が容易になった。剣道審判講習会の座学講習と実技講習の実施がスムーズにできるようになった。
25	フットサルコートとして利用可能なラインがない
26	フットサルゴールのネットの多数か所が破れている。ゴールネットの張替をお願いします。
27	サブアリーナの防球ネットがバスケットゴールに引っ掛かってしまうので、防球ネットとバスケットゴールが干渉しない（引っ掛からない）様に改善してほしい。または「フットサル利用時は防球ネットを使用しなくてよい」等の利用ルールの変更をしてほしい。
28	館内に飲食を提供してくれる、食堂やレストラン等の施設があるとありがたいです。
29	複合施設になって良かったのは、利用する機会ができたことです。親子・一般・壮年のフットサル、小学生サッカー等のイベントを開催できるようになり、男性・女性、幼児から高年齢の方まで、広く三鷹市の皆さんにフットサルやサッカーを気軽に楽しめる機会を提供することができるようになりました。
30	フットサルコートとして利用可能なラインの敷設について
31	フットサルゴールネット等、消耗品の交換時期について
32	飲食店の館内或いは隣接地への誘致について
33	現状では、大変満足をしています。ただ、武道場1のどこかにサンドバックを吊る設備があると良いです。他の武道館などは2つは吊る設備がありうらやましく思います。
34	市・都の行事が多くなり、使用が制限されるようになり、活動時間が制限されてきた。
35	少林寺拳法では時々、年少拳士のためにボールを使用するのですが、柔らかいボール（バレーボール位の大きさ）がもう少しほしい

36	市民大会での昼食をとるスペースがなくて不便です
37	月1回の稽古に会員でない市民の方が見学に来て、なぎなたは会員がその都度持ち込むので余分がなくお貸しできない事があるので、倉庫等に数本でも置かせて頂きたい。
38	倉庫を是非使わせて頂きたい。
39	スポーツセンターのアリーナについて、アーチェリーでインドア大会に使用したいが、大量の畳・的台等の搬入路がない。上部団体が視察したが、搬入路がないことで諦めた経緯がある。
40	駐車場の無料時間を3時間から4時間にしてもらいたい。弓具のしまう時間がなく途中で車をうごかさなければならない。ことにSUBARUの財団や体協に用事があるときも再入場をしなければならなく不便。
41	建物全体の導線が複雑
42	施設が有料だったり規則が細かい。活動の場として考えたが諦めたことがある。
43	団体利用カードが期限切れだとかで予約も出来ない。料金機でも使用できない。なぜ？
44	使用料が上がった時に使えなくなった市民がいる。
45	サードブレイスとしての機能を望みます。
46	施設の使い勝手としては、その備品に所在倉庫の場所のシールが貼ってあれば、返却時に混乱がなくて良いと思います。
47	武道場2（畳あり）に館内電話があると助かります。（温度調整などで連絡がすぐとれるので）
48	サブアリーナ・アリーナの床面保護シート（養生シート）が重い。長尺シートの巻き取りが困難。
49	武道場北側と南側を異なったグループが利用する場合、使いにくい。仕切りが欲しい。
50	小体育室使用中に事務室に連絡を取りたい時のためにインターホンなどがあるといい。
51	生涯学習センター4F ホールの使用料には音響装置使用料が含まれていると思うが、音響装置を必要としないことが多いので、使用料を分けていただけるとありがたい。
52	使用可能な施設が増えて活動しやすくなった。他グループとぶつかって会場が確保できずに活動を休まなければならない時もまだあるが、旧体育館時代よりはかなり改善されていて感謝しています。
53	トイレ、更衣室なども含めて施設が新しくきれいになり快適に使用させていただいています。
54	三鷹中央防災公園・元気創造プラザと駐車場の間に横断歩道を増設していただきたい。プラザ入り口と駐車場をつなぐ横断歩道が遠回りになるため、多くの人が横断歩道を利用しない。クリーンプラザ入り口とその前にあるプラザ駐輪場の間あたりに横断歩道の増設を希望します。
55	玄関前広場に設ける臨時駐輪場は強風の時など危険性があるので、安全なところに

	正規常設化してはいかがでしょうか？
56	突然の雨の時、芸術文化センターのように傘の販売があったらいいなと思いました。
57	施設の使用はほとんどないことから、特段の意見。要望等はありませんでした。
58	屋外競技ですのでプラザの利用機会はありません。耳にする声は、以前よりの使用料金のアップが気になります。
59	フロントの対応の良さが有りがたいと感じております。
60	屋外広場の、子供たちの活動は、素晴らしいです。
61	私たちの活動は屋外競技ですので、大沢総合グラウンドを利用させて頂いての活動です。体育協会並びにスポーツと文化財団のご指導・ご協力を頂き、満足する活動が出来ております。
62	創設以来3年の期間を見ていると、利用者の人数のかなりの増加を感じております。有意義に活用されていると思います。

②ベッセルスポーツクラブ

1	新川テニスコートをオムニ（人工芝＋砂）の雨の影響を受け難いコートに出来ないか？現状雨の跡、晴れていても丸1日使えないことも多い。メンテナンスの容易さは勿論、利用頻度も上がり市民の健康維持に役立つのでは。
2	施設利用の Web でのキャンセル時期を1ヶ月前に出来ないか？本当に定期的に利用したい団体が、予約確保し易くなるのでは？テニスコートの予約の場合、数団体が実質的なグループを作り活動する例も多い為。テニスには少人数の団体が多く、1週間前の24時直前に空きが出る事が多い。・無料開放の中学校コートの使い勝手を多少改善出来ないか？（その他運用）（コートの空きも3日前から予約負荷となる。当日の使用可否判断が15分前？）
3	団体利用可能な中学校のテニスコートの管理にバラツキが有る様だ。・コート内に迄、雑草が生えている例もある。部活のコート整備に差が有るのでは？せっかく市が新たに整備しても、日頃のメンテが悪いと直ぐに雑草が増える。
4	市のスポーツ施設無料開放に対し、利用者の時間管理がルーズな事が多い学校・コミセンその他屋内外を問わず。施設退出時間をゲーム等の終了時間と考え活動している例は多い。特に無料の施設利用団体には時間を守らせる必要がある。
5	SUBARU メインアリーナの通路に、次に使う大人数の生徒が待機している事が多い。今までなら気にならない事ですが？整然と通路に座っている場合と、立ってざわざわしている場合がある。（徹底させる）
6	メインアリーナ両サイドにある卓球台の保管場所はないのでしょうか。多くの卓球愛好家の皆さんがいらっしゃると思いますが、大会イベント開催以外の通常練習ではあれだけの数は必要ないかと。ベッセルフェスト開催時、卓球台は片付けられておりました。どこに保管されていたのか？プレーに夢中になり壁際までボールを追いかけることは危険なことです。卓球台があると尚更です。何より新しい体育館メインアリーナの美観を保つためには、卓球台の保管場所を確保して頂きたいです。

7	体育館の予約に関して情報を発表してほしい。使えない場合など、どこをいつからいつまでどのような理由で使えないのかホームページで発表してほしい。それと同時に常に体育館を使っている市民グループにはメールで知らせてほしい。なんのために個人情報（メールアドレス）を登録しているか考えてほしい。
8	体育館の備品の管理が悪い。壊れた鏡がなかなか修理されない。掃除用のモップが無くなったまま戻らない。セントラルの方は「これはセントラルの物なので使わないで」という割には、市の備品を無断で使っていて予約したものがないケースがある。プールのロッカーや鍵の修理がされていない
9	掃除がきちんとされていない。備品倉庫がいつも埃だらけ。モップを使ったあとどこに集めたごみを貯めるのか不明。プールの更衣室の床が排水が悪い上にいつも汚い。また、プールについて言えば空気と水の流れが悪い。
10	スバルの建物の入り口、駐輪場脇の階段が暗い上、急で歩くスペースに近すぎて危ない。何か注意を喚起するものが必要。
11	駐車場から道を渡ってくると、歩行者の入り口がわからない。車の入り口や石の階段の植え込みと混乱。
12	地下の武道場について。入り口が1つと言うのは防災上あり得ない。予約するのに2つに分かれているのはどうなのか。使いにくい。
13	建物全体にいえるが、動線が考えられていない。4階のホールなど入口1つの上に、廊下のせまく、防災上も危険。人が溜まるように作られている？
14	生涯学習のホールが小さすぎる。社教の昔のホールに比べて、あまりに小さくて発表に使えないグループもある。例えば、星のホールを使えるとか何か工夫はできないか？落語の高座にはピッタリだけど。
15	館内のWiFiが使づらい。せっかくフリーWiFiを入れているのに毎回メール登録からパスワードを入力するのは大変。メール使っていない人もいる。当日のパスワードをどこかに発表しておくとか、活動グループにメールで通知してくれるとか、フリーWiFiというならもう少し誰でも使えるようにしてほしい。
16	館内の換気を空調で行っていますとホームページにあるが、1時間ごとの回数が異なるが、それは広さや天井の高さなどで違ってくるのか？一定の基準に合うように行っているのでしょうか？
17	自主グループと総合グループの違いはありますか、一緒でしょうか
18	スポーツ施設利用について。体育館が一定の企業の優先的な利用と思われるほど通常活動の場所の確保が難しい。教室などの開催場所が押さえにくいので計画が立て難い
19	種目によっては活動するための道具を必要とするが体育館内に置くことができない。一定の団体のみが置いているのは何故ですか。
20	弓道場、アーチェリー場は、2種目で利用しているが、他のグループに貸し出す用意はありますか
21	各室に消毒スプレーを置いてほしい
22	スポーツ用自転車はレールの所に置いてほしい
23	他市に比べコロナ感染者が増えているが三鷹市の感染対策はどうしているのか

24	自動体温計を入りに設置してほしい
25	コロナ感染者増加の際の人数制限についてですが、会場の大きさにより制限人数にもっとメリハリをつけることが必要かと思います。例えば小体育室は何人までと決められてしまうと活動しにくく、また利用者の工夫で密にならないことも充分可能な空間です。人数だけにこだわりすぎず利用者の活動量なども合わせて、柔軟な対応をいただけると助かります。
26	コロナが終息したあとになりますが、メンバーが集えて会話のできる喫茶ルームのような部屋が欲しい

③市民意見の募集《令和3年2月19日～3月12日》

募集期間中に下記2件の意見が提出された。

ア) 3月11日電話受付 建設からそんなに足っていないが総点検する必要があるのか。 建設時の見通し甘かった部分あったのでは。
イ) 3月12日メール受付 「三鷹中央防災公園・元気創造プラザの施設運営の基本的な考え方」の策定の件 提案1 市民の立ち位置で総点検を評価する。 目的 市民の立ち位置で、市政を評価しないと、市政の施策が市民から乖離してしまう事がいたところで、起きる危険性があり、当事者となる市民が高い知見を持つ事で、市政の評価を部分的に実施する事が今後重要となるのではと考えます。 また、市民は世代交代を行っており、次世代に対して、文化文明を伝える責務があります。 シニア世代は、現役時、現代社会を維持発展させた、体験と高い知見を持って、三鷹市で、穏やかな日常生活を営んでいます。現役時代の高い知見と体験を駆使し、市政を評価する事が三鷹市を市民の住み良い環境に維持し、次世代の基盤を構築する役割があると考えます。評価が出来れば、市民と市政の執行者としての職員と交流が出来、相互に発展する事が期待できるのではと考えます。 本質は、市民の肌に施設が充分になじんでいない点にあり、市民が実地踏査による評価を行う事で、実態として、市民のための施設とする事が出来ると考えます。主体は、市民であり、市長は市民が市政に送り出している実態があり、市長は市民のために市政を行う責務がある。その行政報告は市民が議会に送った議員が執行する事で、市長と市民の結び付きを維持しているしくみがあると言えます。 根拠 市民が、利用し、市民の生活向上に寄与する施設であり、平時・災害時最良の状態で、稼働するために、評価し、必要な措置を取るため。市民が、コスト負担、リスク負担、損失を負担し、次世代に引き継ぐため、放置できない。 顔の見えない点検者が、いろいろな人が間接的に話した事やクレームを集めて、ベースとした総点検を参考にした考えで、総点検以上の効果をねらう。具体的には、市民が

実際にその場で、見て、触れて、動かして自由に動かして、5感を通して、感じた事。使って、利用して、得た結果を持ち寄って行う、実地踏査に基づく、市民の立ち位置で、自由に評価し、ノートを持ち廻る手法で、評価する。

情報は出来る限り、濃縮し、本質を公表し、個人を超越し、精査した内容と対象の背景を含めた実態を直視し、検証を組み入れた問題解決を模索・実行して会得した、スキルや知識を蓄積し、フィードバックする。

その過程で、趣旨にあった人を表彰し、努力に報いる事を実践し、そのパワーを最大に活用する事で、次世代に引き継ぎ、未来を思考する。

当面は、試行する事になるが、市民の需要を実現する手段として、市政があるとすれば、多様化社会で、多数決の論理が破たんし、社会的合意形成の論理に移行して現実をより重視し、現代社会のしくみを考える機会ともなる。

前向き、未来指向で、アンチ内向き指向であるとも言える。

数の論理、力づくの論理から脱却し、本質の論理、報われるしくみを目指す。

提案 2

私は、きちんとした総点検をすべきと考えます。総点検を公開で実施すべきです。

総点検は、市民と部局が、公開で、実施し点検の原理原則に沿った、前向きで、明解な、市も、市民も指定管理者も関連部局も理解出来、納得できるものとし、且つ、次世代に伝える内容に高める努力を重ねる事が重要です。

防災公園・免震構造を持つ施設は、三鷹の防災の象徴としての拠点であり、市民のものであり、市民に対し名称、機能、災害時に、安全・安心をよりどころです。

平時に、市民が肌で、感じる状態になるほど、密着してこそ、災害時に機能すると考えます。……市民の日頃の評価が充実すれば、改善の余地はあると考えます。

提案 3

題意からすれば、議会承認を受けた、設計コンセプト等、運用、維持管理の全てが履行される事が、定期点検の対象になります。市民に信頼される内容にすべきです。

実施する点検者は、責任を持つため、名前を明記すると共に、スキル・知見を持ち、市民の目線で、且つ、自らの5感を駆使して、実態を直視し、自ら考え、判断し、根拠を示し、自ら汗をかき、報告書を残すと共に、点検の実態を公開すべきです。

市長と議員は市民が選挙で、責任を問う事が出来ましたが、市長と市民の間で位置する職員は、市民の行う評価でしか、責任を問う事が出来ません。

学識者は、職員が決める事が多く、職員と同様、市民が直接、責任を問う事が出来ませんが、市民のレベルは上がっており、現代社会を維持発展して来た豊富な実体験・スキル・知識・知見は高く、市民の立ち位置と目線を持っており、学識者と変わらないし、多様化社会では、むしろレベル以上の市民が三鷹市におります。

公募で、募集する事で、変われる状況にあります。

いずれにしても、市民が評価をしない限り、市長・議員を実質的に支える事が出来な

い状況にあります。・・・・・・今回の総点検は、職員主導で、多くの問題があり、市民としては、看過できないほど悪化し、市民が参加しなければならない状況です。

提案 4.

背景について、

私は、総点検を詳しく読み解きました。

動機は、元気創造プラザの4階の生涯学習センター、利用者懇談会の市民大学総合コース委員になって、元気創造プラザの竣工の頃から、市民の立ち位置と、目線で、関わった体験があり、多くの疑問を持っていたかです。

所管は同じ部局でしたが、2017年度は組織的にも大きく改革され、組織も制度も、人も、改編や新設・廃止・異動などが多く、新旧対照表のなく、突然行われて改編に混乱していた状況でした。

そんな中、「当該の防災公園・元気創造プラザ」は大きな課題と期待持って、新規オープンしたのです。事実上分かっていた事であり。事前準備が引き継がれず、問題が発生、理解できない事が多くありました。

しかし、今回総点検の事に関わり、実態が氷解した部分がありました。市民の評価がなかった事に、起因していると理解出来たからです。当事者が計画し、履行すれば、評価はあいまいになる原則があるので、利益者、コスト負担者、リスク負担、損失負担者が評価しないと内向き指向に陥り、今の総点検になると考えられます。

多くの市民が、関わりサンプルを抜いて、評価して行く事が必要と考えています。

特に、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」は災害時の避難場所、災害対策・対応の拠点となり、災害時に機能が問われる施設です。だから、平時のかかわり合いを企画し組み込み事が求められているのです。

しかし、所管部局の動きが全くないし、建設本部解散に伴い、引き継いだ内容が果たされていない実態が判明しました。・・・・市民目線で、明確化する事を考えますが。

2021.3.11で、東日本大震災、福島原発事故、・・・・から、10年経過した時点から、防災をなくする事が出来ないと考えました。

出来る事として、市民の立ち位置で、」市政を評価し、市長・議員を支援する事を考えました。

はじめに 経過

三鷹中防災公園・元気創造プラザは竣工して、4年が経過した。この間、市は市民に対し十分な説明をしないまま運用を始めて来ました。竣工時の議会で、クレームが多く、その責任が印象的でした。今も、クレームが解消した訳でなく、市が限られた予算の中、未改修部分の改善に努めていたし、所管部局は、後ろ向きの説明に終始していた。当然、市民に対し、公園やプラザの使命、趣旨や目的、意図、概要等、説明はなかった。竣工時の大改革を消化出来ず、引きずっていた状況でした。

そんな中、突然でした。11月中旬に、「公共施設を魅力的な場にするために」と題し

た、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検」講演会の話があり、驚いた。しかも、背景には、総点検がひそかに、進行し、報告書等が公開されていない事が明確になり、その上、総点検市民会議で、今後の方針を決めるような動きが見えたので驚いた。

私は、市民委員として、「元気プラザ」に関わっていたので、他の学習生より4Fの生涯学習センターを介して、詳しく、動向を見ていました。具体的には、市民大学総合コースの学習生として、社会教育会館から元気創造プラザの4Fの生涯学習センターに引っ越して来ました。

すでに、総合コースの利用者懇談会市民委員として、教育委員会部局から、内定を受けていました。前市長から、内容は教育会館と変わらないと口頭で約束を得ていました。

しかし、実際には、大きな変化があり、その内容を確認をする必要がありました。制度も、所管部局も教育委員会部局から市長部局に変わり、市政の直営から指定管理者制度の導入で、間接的なものになる等、全容がわからないまま、不安な状態が続いていました。

実情は、

教育会館の職員が、指定管理者に異動して、生涯学習を行っている状況があり、仮設的な状況下で、新設の市長部局が市政として3事業の講座が行われおり、その他の講座は、指定管理者がプラザ内の部屋を借りる形で、行う様に、制度上の改編されていました。

動きに支障がないので、説明は省かれた状態で今日まで来ており、市側から、制度等詳細な説明はない。・・・所管部局の取り組みは、消極的で、内向きで、今の総点検の取り組みに象徴される、部局主体の考えが強く、内向きなものでした。

総点検では、

当然対象になっていると考えていたのですが、対象外で、総点検の取り組みを把握する目安として、継続的に注視する事にしました。

また、法的には、社会教育委員会の範囲が現存しているので、市長部局が生涯学習の全てを行う事は出来ない実態があります。従って、不自然な形で今日にまで、続いています。・・・責任区分があいまいで、市政として、第4次基本計画や、生涯プラ2022、部の運営方針の関係等不明な部分があり、運営方針の実態が今も不明になっています。

以上の実態をあえて記載したのは、今回の「三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検の所管部局の取り組みが、日常の取り組みと同様、内向な態度で終始している事を伝えたいからである。

私は、2020年11月に情報公開請求条例で、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検に関する報告書」を請求し、12月に入手して、内容を確認した結果。総点検に関する報告書は、概要であり、点検責任者名がない報告でした。総点検に進行状況は未完で、総点検そのものがあいまいであり、且つ、総点検も点検の原則を無視して、総

点検ではなく、動向調査や、アンケート調査の内容になっており、驚いたからです。

この「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検に関する報告書」が一般の市民に公開されたのは、2021年2月にこの意見募集の直前で、参考資料で、ネットに乗ったPDFファイルだけで、非常に限定ものです。おそらく多くの市民は、タイトルからは、判断するとすれば、総点検は、終了していると誤解していると考えます。

私が、危機感を感じるのは、三鷹市として、あたらしい制度や仕組みの導入には前向き感があるものの実際に活用する段階になると機能不全になって、しまう事例が多くある事です。「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」も、いざ災害時に拠点として使う時に、機能しない事が考えられるからです。

総点検は、経過をたどると、終わってはなく、先送りになっているのです。

原因は、市民の中に当事者になった極一部の市民しか実態がわからない点にあります。・・・内向きの市政が蔓延し、進行しています。今回も、所管部局が新設され、建設本部が解散された背景がありますし、現所管部局では、運営出来ない事を示していると考えます。

疑問・・・職員の教育、幹部の能力低下等は、深刻な状態です。

なぜ、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」の使命を公にし、総点検の根本に据えないのでしょうか・・・2011. 3.11の東日本大震災があり、原発事故を併発し、なお、大地震の危険性、感染症の驚異の中にあって、防災に対する認識が高まっている中であり、防災・拠点として、建設された施設を、総点検をまともに出来ない、関係者をこれ以上看過できないと考えます。

なぜ、・・・市民が市政をサンプリングで、徹底的に評価すれば、直す事が出来ます。市民の知見を恐れているから、市民を遠ざけていると考えています。市のしくみにあると考えています。

市の講演会・総点検市民会議に関しては、市の予定している、講演会、市民会議に参加し、市の考えを把握するように努力しましたが。しかし、全容を把握出来ませんでした。不信感を増加させるだけでした、利用者として、期待していた事が裏切られ思いを強く、且つ、所管部局として、また運営責任者としての資質を疑う状況となりました。

私は、コスト負担、リスク負担、損失負担をする市民として、利用者としては、これ以上黙認出来ないと考え、意見書を提出する事にしました。

総点検報告書は、施設のハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うと冒頭に明記してあるが、報告書の内容からは、真逆で、点検の原則に違反して点検者の自己満足に終始しているものした。

従って、私は下記の4つに分けて、意見書を作成しました。

1. 当該、総点検に対する意見書
2. 同上の報告書で、点検対象であり、抜けているものに対する意見書
3. 設計コンセプトに対する意見書（議会承認の際に示した、施設が具備

しなければならない、使命等)

4. 今後の中長期に対する意見書

なお、2.3.4.の項目は総点検で実施しなければならない内容ですが、所管部局が認識していない事情もあり、意見書としては、概要にとどめ、後日提出予定とします。

1. 当該、総点検に対する意見書

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検に関する報告書」について

全般 本報告書の名称は、総点検が終了している様な誤認を招くため、変更を要す。実質的には、市民会議の論点整理を行うための、意見動向調査報告であると位置付ける内容である。

意見の動向調査であれば、発言者は、総点検のいずれかの資料に記載されたものが存在するが、総点検に関する報告書では、発言者の責任が問われる。点検者、点検責任者はスキル・知識等問われるため、記名が求められる。

総点検が点検の原理原則に沿って行われて事が重要であり、データーの流用は許されない。

報告書の記載内容は、点検の内容にそぐわない・意見・要望、ヒアリング、ヒアリングの解釈、市民会議の提言等であり、動向調査アンケート調査の内容である j。

利用者数は、直接点検に結び付かない。

点検者が直接、点検に当たっていない、視点や判断に差異が発生しているので、点検の内容にそぐわない

以上 点検報告書とは、認められない。

考察

三鷹市民として、このような報告者が市役所内で、認められているとすれば、看過できない。今回は、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザの造形物を対象に、総点検と称して、多くの市民に、提出している実態があり、市民の信頼を著しく傷つけたと考えられます。

従って、実施責任者は責務を負う事になる。・・・市民として看過できない。

特に、防災関係の件については、一切触れていない事を重視し、行政が社会的責務を超えている。

2. 同上の報告書で、点検対象であり、抜けているものに対する意見書

運営方針・評価を裏図ける資料

各年度 各部の運営方針と目標

経営白書

三鷹市の老朽化した5つの公共施設の機能を防災公園に集約した目的等を竣工時に検証した資料

防災施設と平時の施設との関わり、を検討し、実施計画と課題

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの竣工資料と検証資料

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの今後の課題に関する資料
災害時の対応資料及び平時の防災施設の活用等の資料
避難所開設要領、
維持管理、
ごみ処理等、被災者の保護に関する要領
URが主導した結果の検証書類・・・維持管理に要する項目など
防災公園として、実現した内容
収容人員等基本条件
平時の防災施設の活用、市民への防災教育計画

考察

本施設を十分に活動するための課題を平時に、行う事が、災害時に左右する。平時に防災と平時の業務との調和に関する資料。

市民が、直接触れる事が基本と考え、体験ツアー等を企画、防災上のネックを平時に点検し機能を高める。

防災備蓄資材の活用は、重要。

運営方針・評価を裏図ける資料

各年度 各部の運営方針と目標

経営白書

三鷹市の老朽化した5つの公共施設の機能を防災公園に集約した三鷹市中央防災公園・元気創造プラザ整備事業の資料

設計コンセプト

仕様書及び要求水準書

ファシリティマネジメント

防災施設と平時の施設との関わり、

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの竣工資料と検証資料

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの今後の課題に関する資料

災害時の対応資料

避難所開設要領、

維持管理、

ごみ処理等、被災者の保護に関する要領

URが主導して求め点等の検証書類・・・維持管理に要する項目など防災公園として、実現した内容

収容人員等基本条件

平時の防災施設の活用、市民への防災教育計画

3. 設計コンセプトに対する意見書

(議会承認の際に示した、施設が具備しなければならない、使命等)

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」竣工した。

構想時の想定課題を検証し、今後につなげる事を実践、利用方法を模索する必要がある。

運営方針・評価を裏図ける資料の作成と評価手法の検証

各年度 各部の運営方針と目標

経営白書

三鷹市の老朽化した5つの公共施設の機能を防災公園に集約した。

検証データを活用出来るように、可視化する等・・・前向きな取組みとフィードバック
データの構築

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザ整備事業の資料

設計コンセプト

仕様書及び要求水準書

ファシリティマネジメント

防災施設と平時の施設との関わり、

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの竣工資料と検証資料

三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの今後の課題に関する資料

災害時の対応資料

避難所開設要領、

維持管理、

ごみ処理等、被災者の保護に関する要領

URが主導して、得られたメリットとデメリット・求め点等の検証書類
・・・維持管理に要する項目など

防災公園として、実現した内容 収容人員等基本条件

平時の防災施設の活用、市民への防災教育計画

考察 無形から有形にする過程で、試行錯誤した資料を整理し、今後のデータベースを構築し、次世代に引き継ぐ。

4. 今後の中長期に対する意見書

第4次基本計画、生涯学習プラン2022等 中長期計画と関連づけて、具体的なデータを構築する。

5年後の世界を模索し、視点を出来るだけ、遠くにせ知する事で、安定した市政を実現する。

市民のスキルと知見を反映させる試みを考える。

考察 視点を遠くに置き、先読みを実践する事で、安定を維持するように考える。

(3) 利用者懇談会からの意見提出

①生涯学習センター利用者懇談会

1 生涯学習センターの施設・管理について
(1) 学習室の設備、利用方法について
・防災の面から、また、車いすの方への対応の面からも出入口を2か所に増やし、幅を広くしていただきたい。
(2) 施設全体について
・各フロアが独立しており、それぞれのフロアで何をしているか分からないため、電光掲示板以外にも、当日の貸し出し状況が分かるような一覧を掲示するなどの情報発信が必要である。
・外国人向けの案内や手続き等の説明が不十分なので、検討していただきたい。
・冷暖房の切り替え及び実態に合った温度調整できるようにするとともに、エアコンから常に送風が出ており、座る位置によって暑かったり寒かったりするるので、送風を止められるようにしていただきたい。
・少人数で利用できるスペースがほしい。
(3) 施設使用料について
・生涯学習センターで活動するようになり、施設使用料がかかるようになったため、活動回数が減ってしまった。施設使用料が安ければ、毎週活動したい。
・近隣市の施設と比較しても、施設使用料については適正であると感じている。
(4) 生涯学習センターへのアクセス等について
・交通の便が悪いと高齢者の方は来づらいので、シティバスの本数を増やす等、交通の便を良くしてほしい。
・楽器等の大きな荷物を運搬するため、専用の駐車スペースがほしい。
2 生涯学習センターの講座・事業について
(1) 講座の実施方法について
・連続講座の場合、参加費が高額であったり、参加できない日があったりするため、出来るだけ早期に、単発での参加も認めてもらいたい。
・定期的に開催している講座の中で、応募が多かった講座、少なかった講座について、その結果を次回に反映していただきたい。
・オンライン講座やオンラインと対面の混合講座（ハイブリット方式）を開催する等、今後も受講の機会を広げていただきたい。
・興味のある講座があっても、時間等が合わず受講することが難しいため、もっと色々な曜日や時間帯で開催してほしい。
(2) 自主グループ活動のPR及びグループ間同士の交流について

・自主グループで活動している人たちが、自分たちの活動をPRしたり、グループ間同士が交流したりする場がほしい。また、グループごとの交流について、市の施策に反映していただきたい。
3 コロナ禍を経験して
・今回の新型コロナウイルスのような感染症が拡大をした場合、人数制限を受けるため、大きな部屋や複数の部屋を使用しなければならず、利用団体としては施設使用料が負担となっている。減免等措置等、その間の臨時的措置を考えていただきたい。
・市民の交流や活動の大切さがコロナ禍で改めて指摘され、それを支える施設等の場の重要性も再確認できたため、リモート環境だけでなく、『場』としての充実をさらに求めたい。

②体育施設利用者懇談会

1 市民体育施設の運営について
(1) 誰もが分かりやすい利用案内の作成
市民体育施設の利用案内は、市ホームページに掲載されているところですが、初めて利用する人でも利用までの手順が分かりやすいページを作成してください。また、個人利用の際に必要な「市民等カード」作成にあたっての必要書類一覧を市ホームページに掲載してください。
(2) SUBARU総合スポーツセンターにおけるスポーツ教室の拡充
市民がスポーツ教室へ参加できる機会及び時間的な選択肢を増やせるよう、1回あたりの定員数の拡充や、同じ教室を午前・午後もしくは違う曜日で複数回開催することを検討してください。また、20代～40代の市民のスポーツ活動促進という課題を解決するために、土日の成人向けの教室の開催及び子どもをスポーツ教室に預けている間の親向けの教室の導入を検討してください。
(3) 利用者同士が気持ちよく利用できるマナーの共有
プールでのレーンの使い方、トレーニング室マシンの占有、団体貸切施設における利用時間内に清掃をしたうえでの明渡しなど利用マナーに関連する苦情が届いているようですので、さらに注意喚起をするとともに、「利用のしかた」などで周知方法を工夫し、利用マナー向上に向けた取り組みをしてください。
(4) 利用者の気持ちが豊かになる心地よい環境づくり
公共施設の体育館は殺風景なことが多いので、電気を明るくする、色彩を取り入れる、花や観葉植物を設置する、ルールや注意事項が記載してある掲示物の文言にポジティブな表現を用いる等、利用する人の気持ちが豊かになる、ポジティブで心地よい環境づくりを進めてください。
(5) 屋内の市民体育施設における人数制限緩和の促進

現在、屋内の市民体育施設については、感染症拡大防止対策として人数制限を設けているところですが、感染状況を考慮しつつ、人数制限の緩和を進めてください。
2 市民体育施設の設備等について
(1) SUBARU総合スポーツセンターの設備等について
ア 器具庫内における用具の配置場所の整理
メインアリーナにおいて、バスケットボール用ゴールの格納場所を変えたことで、用具の出し入れがしやすくなりましたが、誰もが準備・片付けを安全かつ円滑に行えるよう、引き続き器具庫内にある用具の配置を工夫してください。
イ 誰もが利用しやすい案内表示及び荷物棚の設置
西側の正面入口から入館した際の表示が少し分かりづらいため、初めて来館した人でも分かりやすい案内表示を掲出してください。また、更衣室内に丸椅子が置いてありますが、物を置くには少し小さすぎるため、簡単な荷物棚のようなものを設置してください。
(2) 屋外市民体育施設の水はけの改善
大沢総合グラウンド及び井口特設グラウンド A 面の水はけが悪いため、改善してください。
3 新しい生活様式におけるスポーツを通じた健康づくりについて
(1) 健康・体力相談システムの改善
情報の入力に手間がかかるため、より簡単に入力できるようなシステムにしてください。また、情報を入力した際にやる気を引き出すような画面が出るような工夫をしてください。
(2) オンラインを活用したスポーツ教室及び関連動画の充実
コロナ禍であるからこそ、ZOOM等を活用したリアルタイムでのスポーツ教室の実施を検討してください。また、オンラインで視聴できる動画や三鷹体操やみたかダンス等、三鷹ならではの動画を掲載してください。また、利用者が見たい動画に手軽に辿り着けるよう、年代別、目的・志向別等に分類化されたページを作成するとともに、インターネット環境の無い人やオンラインの操作が苦手な市民に向けたサービスの充実も進めてください。
(3) ウォーキング・ジョギングを継続できる仕組みづくり
外出自粛期間で定着してきた親子でできる運動の推奨やウォーキング・ジョギングを継続できる仕組みづくりを進めてください。

2 学識参加の記録

助言者 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 中村陽一教授

神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 槻橋修准教授

青木将幸ファシリテーター事務所 青木将幸氏

① 令和2年7月1日（水）午前10時～11時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 【三鷹市】スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当2名 【事務局／三鷹ネットワーク大学推進機構】事務局長 担当2名 【事務局／(株)ソシオエンジンアソシエイツ】担当3名
検討内容	現状確認と今後の進め方について
ア) 現状確認と今後の進め方について ・10月くらいまではオンラインの活用を中心とせざるを得ない。年度の後半にリアルとオンラインの両睨みで検討していく。 ・コロナ禍において、大人数で集まることが難しいため、市民に対して市から提案を行い、意見をもらう形での展開を想定。可能であれば2、3月にリアルな場でのワークショップを検討する。 ・現在、大学の教室等の利用はできない。夏休みも合宿禁止、公開講演会もできないことになっている。オンラインでの打ち合わせを中心に、必要に応じて三鷹市に集まることも可能。 イ) 推進手法について ・コロナ禍への対応として、たたき台を三鷹市で作成し、専門家の方々に肉付けしていただいて市民参加の資料として行くことを想定している。 ・紙ベースについては賛成。「論点データ集」などを作成することについても三鷹らしくよいと思われる。 ・今後の助言者からのアドバイスも、その中に盛り込んでいってはどうか。助言者については、個別のオンラインミーティングを中心に、座談会的なことも行う。 ・コロナだからというだけではなく、市民参加のまちづくりを行っていく際に、リモートワーク、オンラインでの意見交換が必要となってくるということを理解していただくためにも、やり方の工夫を行っていくことが、三鷹市らしさに繋がりよいと思われる。 ・団体の方等を対象に、オンライン講習を一度行う必要があるのではないか。またネット環境のアドバイスを行うなど、リテラシーをあげた上で聞き取り等ができれば良い。 ・会議やワークショップも最終的にはオンラインの取り組みができればよいと思われる。グラフィックレコーディングなど、表現を使うことも考えられる。 ・オンラインであっても、70～80名までであればできるのではないかとと思われる。2025年以降を見越し、三鷹でやりましたということで、発信も含めて行っていってはどうか。パブリック commons のひな型をつくることを目標にできれば。 ・デジタル市民参加、デジタル民主主義、DSXとして取り組んではどうか。 ・今回、市民参加のデジタルの技術的な開発も合わせて行うということのように思われる。市民の中にはデジタル的な対応がどうしてもできない方もいるため、先生方のお話を	

リアルな場で聞く市民、それをズームで見る市民という併用構造にできないかと考えている。(パブリックビューイングとチャットの併用) 録画して後で見てもらうという手法も可能か検討したい。

・中村教授が青森(弘前大学)で開催する講演会では、大学の会場 80 名、サテライト会場 30 名に加え、オンラインによる一般参加(50 回線)の講座を行う予定。

・またいくつかオンラインワークショップの手法がいくつかある。日経の講座は全面オンラインとなるが、技術的側面は日経がサポート、TA としてアルバイトを設定、70 名程度で実施予定。オンラインの交流会も行う予定。

・これまで他施設で活動を行ってきた市民団体、新しくプラザを活用している市民が共存しているため、オンライン層だけの意見を拾い上げるだけではなく、様々な市民の声を拾い上げる必要がある。

・これまで脈々と活動を重ねてきた方々を重視しつつ、運用面でのリノベーションを進めるためにオンライン的なものを利用してはという形でのプラットフォームづくりを行う必要がある。

ウ) 具体的スケジュールの検討

・工程表案の作成

・7~9 月: 討議要項の作成、デジタル市民参加手法の検討

職員、市民間でのデジタル市民参加に関する意識の醸成

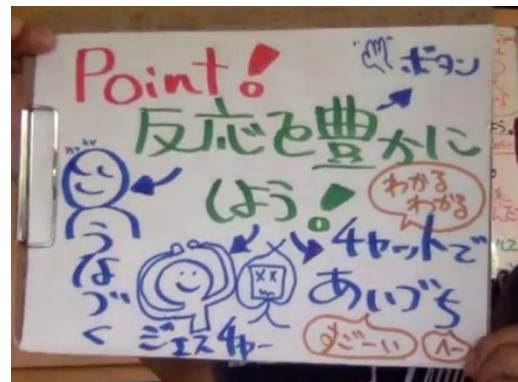
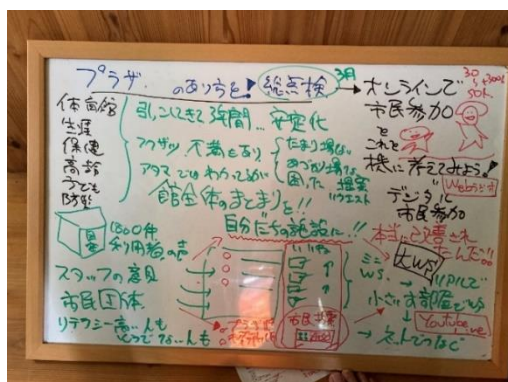
・7 月中下旬: 槻橋先生 勉強会実施: 槻橋先生等の勉強会は、40~50 分 講座、30 分 対談・鼎談、その後チャットを含めた質疑という流れとなるのではないかと。

・ソトノバ 泉山壘威 氏をゲストに招くことも検討。

② 令和 2 年 7 月 1 日(水) 午後 1 時~2 時(オンラインミーティング)

出席者	【助言者】 ファシリテーター 青木将幸氏 【三鷹市】 スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当 2 名 【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】 事務局長 担当 2 名 【事務局/(株)ソシオエンジンアソシエイツ】 担当 3 名
検討内容	バーチャルとリアルを組み合わせた市民参加の手法について
・自分たちが議論したこと、要望したこと、いくつか改善されたことを実感することで、自分ごと化するのではないかとされる。 ・オンラインでは最大 100 名まで行ったことがあるが、25 人(zoom の一画面のマックス人数) ぐらいの参加型ワークショップであれば取り回ししやすい。技術的な工夫をすれば 100 名でも対応可能。出てきた意見を市民が見える状態、いいねと思った意見に「いいね」ボタンを押すことができるようにするなどの仕組みが考えられる。「いいね」が多いものが上のほうにあがってくる、予算は限られているので、「いいね」が多いものから実現される、オンラインワークショップとバーチャル(グーグルフォームなどで OK)、リアル、2 つの場での投票(広報の意味も含め、プラザ、市役所などでシールを貼るなど)を組み合わせて展開するなどが考えられる。	

- ・現在はリテラシーが高い人が中心となっている。例えばグーグルのスプレッドシートを活用し、10 の議事録を同時にみんなで見るなどができるなどが考えられるが、なかなかハードルは高い。
- ・部分的にリアルなワークショップとの連動を考え、小さいワークショップがいくつか行われていて、それを大ワークショップとすることはいいのではないかと。
- ・問いがはっきりしているものは大人数でもやりやすい。例えば「100 人に聞きました」と言ったことなど。一方で「100 人で合意を取る」「決定する」ということはハードルが高い。拡散することはできる。
- ・広げることをオンラインで行い、ある種の傾向をキャッチし、事務局として引き取り、中間とりまとめを提示。そしてもう一度議論して、最終的な取りまとめを行う、二段階がよいのではないかと。起承転結が必要で大ワークショップをどこに位置付けるか要検討
- ・最後のものは、大ワークショップではなく、ブロードキャストに近いように思われる。このような形になりそうだとすることを広くお伝えするもの。YouTube ライブで、市長、担当課、積極的に関わってくれた市民による放送に、視聴者である市民から意見を募っていくなど。
- ・ブロードキャストとしての web ラジオなども検討課題の 1 つ。
- ・今回のワークショップで終わりではなくて、引き続きという形になるのではないかと思われる。
- ・2 か月に一度程度、プラザミーティングということで、小規模のリアル、オンラインの討議の場を設けるのは面白いのではないかと。
- ・一部の人が話し続けてしまうことに対する危惧はある。リアルな場であれば全体の雰囲気の中で制することも可能だが、オンラインで対応できるのかどうか不安がある。
- ・その場合、市民投票をかませることが一つの抑止力になる。
- ・逆に初めての中で話ができない人に対しては、まずみんなでチャットに書き出してみようということに対応している。その中から、この意見について、もう少し聞いてみましょうということが発言してもらっている。
- ・運営はアドミニストレーション 1 名、ファシリテーター 1 名の 2 名で行っている。筆記は PC でもよいが、(早いため) ホワイトボード、模造紙などを活用することが多い。
- ・三鷹市職員向けの講座を先にやり、その後であるとリアルな場での対応がしやすい。
- ・オンラインは反応が分からない、薄いことが問題であるため、最初に約束を共有することも大切である。



③ 令和2年8月5日（水）午後1時～2時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 【ゲスト】泉山壘威氏（都市戦術家） 【三鷹市】スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当2名 【事務局／(株)ソシオエンジンアソシエイツ】担当3名
検討内容	タクティカルアーバニズムとまちづくり ・中村教授より本プロジェクト全体像の紹介 ・三鷹市よりプラザの概要、利用者の声、総点検の趣旨、これまでの展開、今後の展開等の説明 ・楽しい公共空間に作り直す“レシピ”をどう考えていくかというのが今回のテーマだと思われる。今年度の市民参加の実施としては、オンライン、リアルの場合、両にらみで考えている。団体によってはどこまでオンラインでの展開が可能かということもあるため、“デジタル民主主義”の実験的な要素も含め、どう市民参加の検討プロセスをデザインしていけるか、その手法も考えながら検討するという事になっている。プラザのリデザインを進める中で、自分たちごとに感じてもらえるようなコンセプトを考えていく、その中でルールも決めていく、ということ今年度中に見いだせればと考えている。そのためのプロセスデザイン、方法論をどうするかというところから進めている。 ・本日のテーマとして、 ア)プラザには共有スペースが広くなく、多くの方から様々な使い方の要望を聞いている中、市民の意見により共有スペースの使い方を決めていく、その手法について イ)スポーツ団体を中心にニーズが様々に異なる中、いかにプラザのアイデンティティを構築し愛着を持ってもらえるか、そのためのアクションについて ウ)複合施設としてここからどう育てていくか、フロアを超えた交流をどう持てるか、パブリックスペースの活用法の専門家として、泉山氏にご意見をいただきたい。まちづくり＋人のつながり＋ハード面をどう変えていくかに関する知見をいただきたい。 ・泉山氏から ア)三鷹市との関わりでは、駅前の商店街でまちづくりのアドバイスをしている。 イ)また参考ケースとして、渋谷区笹塚のまちづくりをテーマに、会場＋オンラインでのハイブリッド形式での市民参加を行った。三鷹市の市民参加を年度の後半に行うということでは、コロナの感染を考慮した場合、笹塚の事例のように、オンライン中心、プラス対応できない方は会場に来ていただくという形なのではないかと考える。 《笹塚での事例の概要》 テーマ：多摩川上水緑場のコンセプトに関する地元の方の反応、建築家に関する要望、課題などに関する議論 手法：会場ではテーブル型でない形で20名程度×2会場＋Zoom20名程度での展開 運営体制：進行役と記録、1グループ2人のファシリテーターを配置し、議論後に要点を全体に発表した。 ソトノバの関わり：アドバイザーとして関わり、全体コンセプトのまとめは建築家が行う。

り)公共施設の事例にはあまり関わったことはないが、サードプレイスということであれば知見を提示することができるのではないかと考えている。 エ)プラザ内部の改造ができないのであれば、公園側で展開していくということが考えられるのではないか（公園の中に小屋を建てるといった意見が出てくるかもしれない）。今年度、屋外での展開を実験的に行ってはどうか。 わ)また可視化することが重要であると考え。これまで行ったヒアリング結果や施設長による施設紹介などをブックレットしてまとめ、顔が見える形をつくっていくことが必要なのではないか。今年度だけの展開では難しいが、来年度展開できるのであれば、シビックプライド（市民の想い）ということで、管理者の思い、利用者の声などを視覚化していく、屋外で発表していくといった展開が考えられるのではないか。 か)ハードへの対応と同じくソフト領域でも来年度への継続的な展開が考えられる。来年度までの対応ができるならば、タクティカルアーバンイズム、プレイスメイキング手法の活用は、ある程度可能であると考えられる。	
・中村教授から 今年度は総点検を行いつつ、アクションの入り口までを見せることができればと思われる。プレイスメイキング、タクティカルアーバンイズムの発想を応用していくことができるのではないか。中期的には健康と文化、スポーツ、教育がどうつながっていくのかを市民参加で考えたい。“社会的処方”というイギリスから入ってきた考え方では、“リンクワーカー”という人材育成と合わせて人々の暮らしを支えていくという展開があり、日本でも少しずつ実践が始まっているが、このような人材を育てていくきっかけづくりにもなればよいのではとも考えている。	
《意見交換》 ・三鷹市：階を超えて行われていること、関わっている人を知り合う、情報交換するだけでも良いと思われる。各フロア共同で展開できるとよいと思われる。 ・中村教授：そのためには日常的にすれ違うことのできる空間デザイン、社会デザインができるとよいと思われる。 ・泉山氏：屋上を利用できないか。 ・三鷹市：屋上は緑化に利用されており、庭園として一般の人が利用する形にはなっていない。	

④ 令和2年8月7日（金）午前10時～12時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 神戸大学 槻橋修准教授 【三鷹市】スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当2名 企画経営課参加と協働担当1名 【事務局／三鷹ネットワーク大学推進機構】担当1名 【事務局／(株)ソシオエンジンアソシエイツ】担当3名
検討内容	タクティカルアプローチ～タクティカルアーバンイズム、プレイスメイキング

	の手法について～
・中村教授より本プロジェクト全体像の紹介 ・三鷹市よりプラザの概要、利用者の声、総点検の趣旨、これまでの展開、今後の展開等の説明 ・槻橋准教授から「タクティカル・アーバニズム」「プレイスメイキング」に関する講演 ※講演内容は別紙１・別紙２のとおり 《中村教授・槻橋准教授の対談・質疑応答》 ・中村教授：コミュニティデザインとまちづくりの違い、場を起点として試行錯誤をくりかえし、場をつくっていく、これは、これまでの三鷹のまちづくりの仕組みとも親和性が高い。大規模改修はできないが、もう少し各階が連携できる展開、市民が愛着を持てる展開、そのような実験ができるとよいのではと思われる。空間デザイン、社会デザインを組み合わせた”人間のまち”を具体化していくことなのではないかと思われた。三鷹市にはまちづくりの基礎的資料もあるため、第三者評価、ガイドラインの意味合いも持ったデザイン・ブックを作成できるとよいのではと思われる。そして三鷹市が重視してきた人材育成において、プレイスメーカー、振付家、まちの振付をするような人、リンクワーカー、ソーシャルデザイナー、このような人々を、講座を行うのではなく、具体的な取り組みの中で育てていく、そのような仕組みをつくれるとよいのではないか。 ・槻橋准教授：日本の自治体が展開していない、というわけではなく、市民のことを考えて様々な実践をしてはいるが、住民の側に消費者意識が強いため、住民を変えていかなくてはならないのではないかと思われる。おそらくプラザでは体育館が一番人気なのではないかと思われるが、それを使う方々の場所取り合戦に陥っているのではないか。一部の利用者がわがままを言いだすと、本当のパブリックは実現できない。既得権益を守るのが行政の仕事ではない。ここは、とても揉めるところであるが、そのようなポリシーを行政側が思想的に持っているかどうかがとても重要である。既得権益の方々をリスペクトはするが、多様性も認めてもらう、そのマインドセットをどう図ることができるかが重要。市民の意見を聞く時に、言いなりになるのではなく、時に市民から罵倒されることがあっても、「最初からこのプロジェクトに関わってきた私としてこういう意見がある」と発言する。一番パブリックに立つ人が決めていく、それがリーダーシップであると思われる。行政、市民共に慣れていく必要があり、それをどう伝えていくかということも重要である。 ・三鷹市：より深く関わっている市民の中からプレイスメーカーを見出していくことが重要であると思われるが、どうやってプレイスメーカーを探すことができるのか。 ・槻橋准教授：多様なプレイスメーカーが情報交換をすることができて、プレイスメイキング・タスクフォース(中間組織)をサークル的につくることが重要である。各施設から外交官を出すイメージである。それをキュレーターの的に設定してみてもどうか。 ・三鷹市：プラザ全体としての視点を持つことは、現状ではすぐには難しいように思われる。 ・槻橋准教授：オーストラリアがやりやすいかというと、そうではない。市にプレイスメイキング部署がある。例えばバス乗り場を拡張する際に、市民の調整を行うなどの業務が	

ある。プラザでは、縦割りの果てにミルフィーユ状になってしまっているが、それをつなぐことができるのが人である。例えば「元気創造まつり」の実行委員会をタスクフォースにして、その中からプレイスメーカーを見つけるなどの手法が考えられる。

・中村教授：これまで三鷹市では「まちづくりディスカッション」を行っていたが、それをプラザで行うことができないか。また三鷹市市民協働センターにしっかり関わってもらうことはできないか。市の都市デザインの部署との連携も可能であれば考えられるとよいのではないか。プラザにおいても、単に市民から意見を聞くのではなく、「まちづくりディスカッション」の仕組みを取り入れるとよいのではないかと思われる。

・槻橋准教授：全く新しい仕組みをつくるとパワーもかかり、予算措置も難しいため、既存の防災訓練を祭りのような全体の融合の場にできないか。防災テーマでまちづくりを行うことは、防災面でもまちづくり面でも、両方にメリットがある。現在、守る人と守られる人が分断されているが、そうではなく、みんなで取り組む（防災と減災）という形が作れればよいのではと思われる。

・中村教授：プラザに関わるステークホルダーが自分の問題に関わるだけではなく全体に関わる意識を持つ、そのきっかけづくりがイベントでできればと思われる。

・槻橋氏：プラザは商業施設のような賑わいはないようだが、スポーツ、生涯学習施設があるため、閑散としているわけではないと思われる。キッチンカーで弁当を売るなど、様々な展開が考えられる。三鷹は都心でもあり、人材も豊富にいると思われるため、今まで使ったことがない人にいかに使ってもらおうかという視点から考えていくことが重要である。例えばバーベキューなどの三密を避けたイベントが考えられる。都市で広いスペースは貴重なので、簡単にできることは「広さの提供」である。例えば1日何組限定でピクニックをしていいですよ、などの展開が考えられる。

・三鷹市：プラザについて考えていくことで、隣接している市役所との空間づくりを考えていくことになるのではという気づきがあった。まずはプラザから始めてみて、波及効果を得ることができればと考える。

・事務局：今後の進め方について、アドバイス、アイデアをいただくなどの形でお願いできればと考えている。社会実験的なアクションプランを組み立てながら意見をうかがい、フィードバックしていく中でアイデンティティを作っていければと考えているが、どれくらいの期間を想定すればよいか。

・槻橋准教授：今年度企画し、来年度実施、再来年度以降の3ヶ年計画を立てる流れが望ましい。

⑤ 令和2年9月18日（金）午後3時～4時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 【三鷹市】スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当2名 【事務局／㈱ソシオエンジンアソシエイツ】担当3名
検討内容	今後の進め方、講座の持ち方について
・三鷹市：この間の助言者やゲストとのやりとりを踏まえて、ワークショップは集約された意見へ息を吹き込む、肉付けするという位置づけで実施する。	
・三鷹市：日本版「プレイスメーカー（仮称：場づくりすと）」を養成するような講座を	

今年度行うかどうかは検討中である。また開催へのロードマップはまだ描けていないが、将来的には、団体の枠を超えてプラザのために活躍しようというミッションを持つ人を集められれば、というイメージを持っている。

・中村教授：

三鷹市における新しい市民参加のあり方、方法ということでこの事業が展開できないかという市長の想いが原点としてある。そういう意味では、どうやって空間デザイン、コミュニティデザインをつくりだしていくか、両者を突き合わせる事が大切であると思われる。目に見える建築側からのデザインが先行してしまいがちだが、それをどうコミュニティデザインに着地させるか、それを新しい市民参加の手法にできるかということがポイントであると考えている。そうでないとこれまでの空間デザインの焼き直しになってしまうため、三鷹らしさがなくなってしまう。そういう意味では槻橋氏、泉山氏の知見を最大限生かしながら、プラスアルファし、三鷹方式を検討できればよいのではないかな。

目に見える成果の場としては、プレイスメイキングや新しい市民参加の拠点となる場を、可能であれば物理的空間として設置すること。そこからオンラインで色々な人とながつながっていく「プレイスメイキングセンター」機能、「場づくりセンター」機能を持つ場である。目に見えるものがどこかにあることが望ましいと思われる。外に開かれたネットワークセンター的なものができ、外部の様々な知見を持っている人となつがれる、そういうところまでいけるとよいと考えている。

受け付けはサービス機能として必要であるが、一人で全て担うのは難しいため、適材適所につなげるネットワーク力を持った人が 1 階のどこかにいるのは望ましい。それを育てるということであれば三鷹らしさが出せるのではないかな。

分かりやすいイメージはプロボノである。様々な経験を持つ人が地域や社会に関わっていく形である。プラザで活躍するプレイスメーカーとはそのような人なのではないかな。

・事務局：来年度以降、プレイスメーカーを任命していくのかどうか、そこで事業を展開していくのか、プレイスメイキングの考え方を三鷹市に根付かせるためにどう共有認識をつくり、養成し、作戦会議を通じて実施されるのか、そのロードマップをどうつくっていくかが大切であると思われる。講演会的なものもあるが、その流れを槻橋先生方とも検討する必要があるのではないかな。

・三鷹市：三鷹やプラザでプレイスメーカーがどのように活躍し得るか、というのは難しい。任命方式では市民参加的でないように思われる一方、自薦方式では場をコーディネートしきれないことも想定されるため、設定が悩ましいところである。

・中村教授：

講座で育てることは難しい。講座はあくまでも「知り、考える」きっかけづくりの場である。手法としては PBL。実際に把握できているプラザの課題、クレームを改善していくプログラムと一緒に考える。そういったプロジェクトを回しながら、三鷹的なプレイスメーカーが育ってくるのではないかな。

大学連携をしたり、インターンシップで参加してくれる人などとチーム編成を行ったりしてはどうか。

PBL で参加する人を非公式に募る形で、プログラムをメイキングするためのミーティ

ングを一度行ってみてはどうか。青木氏のファシリテーションによる、多くの市民の声を聞く場を設定するのは別に戦略会議を持つことは必須である。

・三鷹市：市議会からも、広く参加する機会を持てるのかどうか、ということ問われる。発言に責任を持ち、動いてくれる人が集まる会議体をつくることができればと考える。

・三鷹市：今後、コロナ禍におけるイベントや集会等での施設利用基準の緩和がなされれば、メインアリーナで 100 人程度のワークショップを実施することは可能になるかもしれない。（1 時間：拡散、1 時間：収束の 2 時間程度の実施を想定）。誰でも参加できる、とい場を一回は持ちたい、と考えている。また、来年度以降、実際にプレイスメイキングをしていくときにも、年一回程度、広く市民の意見を聞く機会を設けられればと考える。

・中村教授：「NPO 法人二枚目の名刺」が行っているような展開のイメージを持っている。三鷹市の中にそのようなグループがいると話が早い、ない場合は「NPO 法人二枚目の名刺」のような組織に相談できればよいのではないかと。

・事務局：コロナで先行きが不透明な部分もあり、今年度は助言者による市民向け講座の実施と、可能であれば小規模の検討会議を開催するという形で進め、2 月に市民参加会議を行い、来年度につなげていくという形がよいのではないかと。

・三鷹市：11 月頃に想定している助言者による連続講座は、講座を通じて総点検の活動を知ってもらい、その後でよいので意見をもらうという位置づけもある。

・中村教授：講座は、40～50 分 講師が話し、メイン講師と対話相手に対談する形がよいのではないかと。河村市長にも対談の形で登壇いただきたい。その後はリレー形式で対話相手を設定する。市長が登壇することが市民に対しての本気度を示すことにもなると思われる。

・三鷹市：聴講している市民のアウトプットの場合があるとよいのではないかとと思われる。講座を公開し、ブレイクアウトセッションで話すなどの展開を検討したい。

・中村教授：2 月の総点検市民会議に向けてどう展開するか、講座との関係性は考えなくてはならないと思われる。チャットとブレイクアウトセッションを組み合わせることで意見を聞くことは可能である。

⑥ 令和 2 年 10 月 1 日（木）午後 1 時～3 時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 ファシリテーター 青木将幸氏 【三鷹市】スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当 2 名 【事務局／三鷹ネットワーク大学推進機構】事務局長 担当 2 名 【事務局／(株)ソシオエンジニアソシエイツ】担当 3 名
検討内容	総点検市民会議のあり方について ・この間の進捗と市民参加資料について（三鷹市） ・「タクティカルアーバニズム」「プレイスメイキング」等に関する振り返り（事務局） ・青木氏から所感 ・中村教授による解説 ・意見交換

・中村教授：

大和ハウスの寄付講座を3年間展開するなど、空間デザインと社会デザインとの相互乗り入れについてここ数年研究しているが、その中で、都市デザインや建築を担う方の中でも「ソーシャル」ということが、大きな流れとして出てきた。

今回の総点検市民会議の動きは市長からお話をいただいた。もともとある施設の改修であるため、一から何かをつくるというものではないが、三鷹で新たな市民参加の形を考える契機として、プラザの見直しについて考えたい、という趣旨となっている。

来年度以降、どのような実施体制を持つのかにもよるが、有識者で固めるのではなく、市民メンバーを入れられるような展開ができればという思いがある。

・青木氏：

三鷹板のプレイスメーカーが育っていきながらプラザがよくなっていく、というのはとてもよいアイデアだと思われる。職員、市民が愛着を高めながらよりよくなっていくというのは非常に面白い。三鷹らしい取り組みであると思われる。

2月の総点検会議についてファシリテーションは行うが、加えて継続的で日常的なやりとりをもっと入れていくことが大切なのではないかと思われた。

現時点で、プラザと市民との間のハブになっている人は誰なのかということが気になる。小さいところから一緒につくっていくことがよいのではないか。例として”共有ロッカーどうするの会議”ということを行ったことがあるが、そこで個々の団体の活動を知り、理解を得ることでお互いに思いやれるようになったということがある。

・中村教授：

さいたま市民活動サポートセンターの施設管理の運営においても、当事者として考えることで、市民がつながるきっかけとなった。プラザの中に、小さくてもよいのでそのようなスペースがつかれないか。

オラファー・エリアソンの言葉である「スペース・イズ・プロセス」ということである。仕掛けたから人が育つのではなく、プロセスによって人が発見される、これが大切なのではないか。

講座については、講演というよりは、講師による話題提供、講師とモデレーターとの対話、参加者からの意見という流れを考えている。チャット機能を使い、モデレーターがうまくつなぐ形はどうか。

・事務局：

12月から1月にかけて2回、対談形式の講座を行い、その後1回、青木氏がファシリテートする形での少人数でのディスカッションを行いつつ、2月に大ワークショップを行うのが、理想的な展開だと考えている。

その中でさらなるキーパーソンを見いだしていき、来年度以降のプレイスメイキングに繋げて行く道筋がつけられればなおよい。

・青木氏：

フェイスブックグループを活用した、日常的な利用者の意見交換の場があれば面白いのではないかと考える。そしてそれを基にしたワークショップ展開もあるのではないかと考える。

オンライン・ワークショップでもやり方は色々ある。「何を言ってもかまわないので、私だったらこう変える」という5分プレゼンを募集するという形なども考えられる。「いいねボタン」が多いプレゼンについては予算化を検討するなどの仕組みも面白い。

・事務局：

一つのグループで展開するのではなく、「これまで使っていなかった層のディスカッション」と「これまでのユーザーのディスカッション」、2つに分けて展開するというやり方もあるのではないかと考えている。また年明けに、「私が市長だったらこうしたい」という意見を SNS で募集する市民参加の展開を計画しているため、連携できるのではないかと考えている。

⑦ 令和 2 年 10 月 21 日（水）午前 10 時 30 分～11 時 30 分（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】 立教大学 中村陽一教授 【三鷹市】 スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当 1 名 【事務局／三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当 1 名 【事務局／(株)ソシオエンジンアソシエーツ】 担当 2 名
検討内容	コロナ禍対応によるオンライン中心の取組みへの方針転換について等 ・三鷹市：12 月開催予定の市民参加について、感染症対策の観点から人が集まる形での開催を断念し、オンライン中心の開催方法としたい。 ・中村教授：助言者による講演会のほかに、日程が合えば市長に登場してもらい、市民へ直接メッセージを発する場となるのも良いのではないかと。 ・三鷹市：オンラインでの発信方法について、機材や、オンラインに不慣れな参加者のフォローなどリアルな講演会やワークショップとは異なる運営が必要ではないかと。 ・ネット大／ソシオエンジンアソシエーツ：役割分担をして対応して行く

⑧令和 2 年 11 月 20 日（金）午後 4 時半～午後 5 時半（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】 ファシリテーター 青木将幸氏 【三鷹市】 スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当 2 名 【事務局／三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当 1 名 【事務局／(株)ソシオエンジンアソシエーツ】 担当 3 名
検討内容	市民を対象とした講演会の開催について ・三鷹市：中村教授・青木氏の他に、全体進行をする司会を置く。オンラインと会場参加者の両方をカバーするために、1 回目の講座は、質問を会場でカードで取り、担当者がパソコンでチャットに入力する等の工夫が必要。2 回目の講座は、前半（45 分）は河村市長の話を中村先生が聞くため、会場のファシリテーションを中村先生が行う（プラザに対する思いを市長にお聞きする）。その後 5 or 10 分の休憩をはさむ。オンラインでの質問はチャットで受け付ける。 ・青木氏：後半の 45 分、オンラインとリアルを全く切り分けるというやり方もある。まぜるとすると 45 分は短すぎる。チャット画面を大プロジェクターに映し出し、なんとなくこういう話をしているのだということが分かるようにしてもらうことは可能。1 人オンラインに三鷹市の事情が分かる方に入ってもらい、通常、ブレイクアウトルームごとにスプレッドシートで議事録をつくるということを行っている。会場では、オンラインの質問を少しお話しし、クロージングを行う。オンラインでは、オンラインのみでのクロージングを行うのはどうか。実施に当たり、PC や zoom の習熟度と機材をオンラインの参加者

に事前に聞いていただきたい。

・事務局：現在の申し込みは7人。オンラインの習熟度は低いように思われる。

・青木氏：チャットの書き込みなど難しいことは無理なのではないか。質問は、「第1問感想」「第2問元気創造プラザをどんな風にしていきたいですか?」「第3問三鷹市でどんな場づくりをしてみたいですか?」等とし、面白い意見を寄せてくれた人に少し発話してもらおう。これで45分ぐらいのイメージである。

・事務局：オンラインと会場で手分けをしていづれにも三鷹市側のスタッフが居るようにする。クロージングで再度、会場にオンラインを繋ぎ、オンラインと会場の意見の振り返りをする。会場の後半は中村先生がファシリテーションをお願いする。リアルに講座を行う会場と、オンラインの対応を行う部屋を分ける形とする。

・青木氏：当日は17:45よりテストを行う。自分がホスト、事務局を共同ホストにする。スマホユーザーは4画面しか見えないため、4画面設定にしておくことが親切である。

・三鷹市：カメラは基本オフとする。会場内は全員マイクでしゃべり、音声は性能の良いスピーカーフォンのみを利用する。

・青木氏：できるだけオンラインの声を会場に届けないほうがリスクは小さい。後ほどスピードテストの結果をお知らせいただきたい。

・三鷹市：職員研修についても1月か2月での実施をお願いしたい。午後半日、オンラインでの実施イメージである。若手中心に参加し、槻橋准教授の講座は事前に見てもらう。

・青木氏：職員間の情報共有のしくみなどがあると面白いのではないかな。

⑨ 令和2年12月3日(木) 午後7時半～午後8時(オンラインミーティング)

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 【三鷹市】スポーツと文化部調整担当部長 【事務局/㈱ソシオエンジンアソシエイツ】担当者
検討内容	2月予定の講演会や助言者会議の開催方針について等
・12月15・18日に開催される講演会について、当日の流れ等の最終確認 ・12月15日の講座前に開催する助言者会議に向けての事前打ち合わせ	

⑩ 令和2年12月15日(火) 午後5時半～6時半(オンラインミーティング)

出席者	【助言者】立教大学 中村陽一教授 神戸大学 槻橋修准教授 ファシリテーター 青木将幸氏 【三鷹市】スポーツと文化部調整担当部長 芸術文化課長 担当者 【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】事務局長 担当2名 【事務局/㈱ソシオエンジンアソシエイツ】担当4名
検討内容	総点検市民会議のあり方と来年度展開について
《タイムスケジュール》 (ア)趣旨説明 5分 (イ)2021年2月に実施を予定している市民参加ワークショップ等の持ち方について(25分) (ウ)来年度の取組みについて(25分)	

(エ) その他 5分

・中村教授：チラシで設定していただいたキャッチコピーのような展開ができればよいと考える。

・槻橋准教授：成功体験を持つことが重要。例として、鶴舞公園というリニューアルされる公園があり、市民で2か月に一度くらいの集会を行い、読み聞かせをやりたい人、音楽をやりたい人ということで、実費を町田市が用意し、集会はグループごとに集まりという展開を行った。イベントの総合的な融合はファシリテーターが行っていた。そういったものに参加することができる仕組みを作れるとよいと思う。また公共スペースにベンチを置く、飾りつけをしてみるなど、アイデアの段階から意見を聞きながら展開するのがよいのではないかと思われる。“ビジョンを語る→アイデアを出して育てる→社会実験”の成功体験を重ねることが大切。

神戸では、ホワイトディナーという、パリで行っている、白でおしゃれをしてご飯を食べるというイベントを行ったが、数百人集まり、講演の芝生で驚くような風景が出来上がった。ゴミもみんなを持って帰るという仕組みにした。こういうイベントを通じて、その先に「公園のルールを守らないとね」、とか、「市の姿はこうなっていくといいよね」ということになる。三鷹市であれば、こういうことができる人がたくさんいるのではないかと思われる。

・三鷹市：以前、槻橋先生から「場所の分捕り合戦になっていないか」というお話をいただいたが、コロナの状況がなおさるという状況を生んでいる。職員もここはいい、ここはだめと切り分けをしにくい。職員のモチベーション、市民の気持ち、両方を変えていくことのできる展開にしたいと考えている。どうやってみんながハッピーに場所を使うことができるかという再構築の場であると考えている。

・槻橋准教授：どうやってその場を運営するかという時に、価値を上げていくためのビジョンを市民と一緒に作っていくことが重要。鶴見公園でも、既得権を持っている人の扱いが難しかった。テニスコートを増やすという交換条件をつけるなどしなくてはならなかった。しかし限られたスポーツを優先するのは、個人の健康づくり促進を抑圧することになってしまうので、公平性を持って判断していかななくてはならない。そのポリシーをオープンにしていくことが重要である。

・三鷹市：意見を聞きあう、出し合うということが、コロナにより難しくなっているように感じる場面もある。

・青木氏：オンラインだからできることもあるので、未来永劫でなく、ちょっとやってみる、トライしてみる、そして修正していくということが重要であると思われる。

・事務局：プレイスメーカーはどう育っていくのか？

・槻橋准教授：難しいが、若手職員の中にそういった資質がある人、話すことが好きな人、こういった人を組織的にバックアップすることが重要。市民の中からもそういった人が出てくるとよい。例として、東遊園地の場合、芝生を敷いてライブラリカフェを始めたが、とてもうまくいき（※アーバンピクニックとう名称で展開）、社会実験を重ねたことでパークPFIでカフェを作る計画が進んでいる。

都市再生推進法人という仕組みが最近できてきており、PFIとして神戸市が認定することで、プレイスメイキングの活動に補助金がつきやすいようにするといったことをしている。プラザがそういった活動拠点になるイメージで展開するのが良いのではと思わ

れる。市が決めるのではなく、中間組織がそのような機能を持つことができれば、市民との関係もよくなる。札幌の地下のエリアマネジメントの成功事例などもある。オーダーメイドでその場にマッチしたプレイスメイキングが重要。

・事務局：ボトムアップ的な動きと市からのトップダウン的な動きがうまくマッチし、中間領域という形で機能する流れをつくることができればよいといことですね。拠点化するということは重要なですね。人が集まりやすく、愛着が湧くような場づくり。プラザをそのようなものにしていく必要があるのではないかな。

・中村教授：複合施設といった時に、領地を取り合うという話になってしまったため、2回のセミナーと来年のワークショップの中では、複合施設であるということにとらわれすぎている利用者に見つめ直してもらい、頭を柔らかくしてもらい、そういう機会になれば良いと思われる。

⑪ 令和3年1月12日（火）午後3時～4時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】ファシリテーター 青木将幸氏 【三鷹市】スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当者 【事務局／(株)ソシオエンジンアソシエイツ】担当3名
検討内容	職員ワークショップ・総点検市民会議の持ち方について
（ア）職員ワークショップについて ・三鷹市：職員ワークショップは現場の人たちが意見を出してみようという経験をし、楽しかったと思えることが目標。職員が考えた講座が実現するなど、具体的なことにつながるとうい。2、3歩先のゴールとして、日頃はばらばらに活動しているが、業務の中でも一緒に活動すれば、より良い市民サービスにつながるよねということに気づくとよいと思われる。特に若手が一緒に行動するという場を3年間で提供することができていないため、より良くするとしたらどういう方法があるのか、といった気づきを提供することができればよいと思われる。 ・青木氏：ワークショップ終了後も継続的に議論することができるツールがあるとよい。ワークショップ全体として、いくつかの問いを元に議論ができればと思う。問いの準備を進める。 （イ）総点検市民会議について ・三鷹市：リアルに展開するとしても、市民50～60人、平日午後開催を想定する。広報は2月7日となる。緊急事態宣言が延長される可能性も高い。先日の市民を対象とした講演会では、オンラインでは1/3の人が発言していたが、市役所職員の知り合いも多かった。会場では、プラザ利用団体の方が質問をしていた。質問をまとめ、1月中に、来年の方向性としてまとめていきたいと考えている。 ・青木氏：ハイブリッドで展開する場合は、オンラインと会場とでファシリテーターをそれぞれにつける必要がある。会場でのファシリテーションは私が行う。ハイブリッドとして広報をしておき、無理な場合はオンラインとしておいてはどうか。ソーシャルディスタンスを取る工夫をしつつ展開ができるのではないかな。会場では旗揚げや、書いたボードを	

見せるなどの工夫が考えられる。会場、オンライン、どちらかに力点を置かないとオペレーションが難しいのが現実である。

・三鷹市：会場をメインとし、オンラインは可能な人のみチャットに書き込みを行い、会場でその意見を拾っていく形はどうか。

・青木氏：あるいはオンラインに力点を置き、顔を映して参加ということにすれば、もっと多くの人にトークに参加してもらえないか。

・三鷹市：講演会ではスマホ、タブレットで視聴している人も多かった印象がある。

・青木氏：オンラインに力点を置き、パブリックビューイングを行う形の方が良いのではないか。「オンラインに力点を置いた形でのパブリックビューイング付き」としての実施を想定する。

・青木氏：最初の 30 分はアイスブレイクと使い方研修を行う。zoom の使い方講習も行いますという募集の仕方をしていただければと思う。

・三鷹市：広報原稿を作成し、青木氏に確認してもらうこととする。

⑫ 令和 3 年 1 月 29 日（金）午後 7 時～8 時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】 立教大学 中村陽一教授 【三鷹市】 スポーツと文化部調整担当部長 【事務局／(株)ソシオエンジニアソシエイツ】 担当者
検討内容	総点検市民会議の持ち方について ・ 2 月 23 日開催の総点検市民会議について、オンライン＋パブリックビューイングでの開催とするため、進行の確認を行う。 ・ 当日の趣旨説明について中村教授に担当いただくことで調整。

⑬ 令和 3 年 2 月 19 日（金）午前 8 時半～9 時（オンラインミーティング）

出席者	【助言者】 ファシリテーター 青木将幸氏 【三鷹市】 スポーツと文化部長 同調整担当部長 芸術文化課長 担当者 【事務局／三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当 1 名 【事務局／(株)ソシオエンジニアソシエイツ】 担当 3 名
検討内容	総点検市民会議 当日の運営と資料等の確認 ・ 当日の進行（開催概要）の確認 ・ 参加者に事前配布する資料（ファシリテーターからの手紙）について確認

3 職員参加の記録

(1) 職員からの意見収集

① 職員ワークショップの開催

(ア) 開催概要

◆開催日時	令和3年1月19日（火曜日） 午後1時30分～4時30分
◆内 容	プラザを運営する職場の職員どうして、施設運営の今後について考える。 オンライン会議システム zoom を使ったワークショップ研修。
◆講 師	ファシリテーター 青木将幸氏
◆参加者	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ内に入居する職場及び関連する職場の若手職員を中心に 20 人（男性 11 人 女性 9 人）

(イ) ワークショップで出された意見

1	"放課後に子ども（主に小学生）が集まれるような憩いの場があればいいと思う。公園で遊ぶだけではなく、屋内で集まれる場所が提供できるといいなあ。宿題ができる／遊べる 等々。今は、屋内で走って追いかけっこして叱られる。
2	中学生にも勉強できる場所などがあればよいのでは
3	コンビニ・カフェがあるといいのではないかな。小さい子ども連れの親子連れ（幼稚園終わった後など）休憩できるところがあるといい。
4	カフェ系のアイディアだと、今は自販機コーナーで椅子があるだけ。食事ができたり、お茶とケーキが出るなどの場所が合ったら楽しい。
5	いろいろな階があるので、スポーツだったら「スポーツをやりに来る」人がくる。ご高齢の人でここを利用する人たちが、小さい子ども達に対して講座を開くなど、他の施設を利用している人が他の施設も利用するようになったらいい。
6	近隣の人を巻き込めるといいと思う。例えば、小学生の親が子供に持たせる防災頭巾を創る講座を開く、とか。
7	世代間（高齢者と子供）の交流が図れるような取り組みがあったらいい。色々な人がプラザを使ってくれているが、世代間で分断されている。交流ができれば素晴らしいと思う。
8	生涯学習センター利用者懇談会でも、グループが固定して新しい人が入ってこないという意見がある。3階も高齢者が多いが、4階も高齢化しているのではないかな。個人利用の子どもたちはいるが、他の活動と交流するということはない。
9	自主グループの人たちも、他の世代と交流はない。
10	独りでアリーナを見ている人がいる。そういう人達が、活動をちょっと覗けるような工夫があればいいなと思う。見ているということは興味があるのかもしれないので、一歩踏み出すためのしかけづくりがあればよいのでは
11	関わりあいを持てるためのしかけづくりがあるといいのでは
12	足湯とかあるといい？
13	三鷹の飲食店にキッチンカーを出して貰う
14	地域の高齢者と学童保育所との交流会をやる、というのも面白いのでは。お年寄りが昔遊びを子どもに教えるのもいいし、その逆で、子どもがお年寄りに遊びを教え

	る、という方向もある。
15	子どもがお年寄りにスマホを教えるのとか、どうでしょう？家族じゃない方がイライラしないで教えられるかもしれない。
16	教えると、相手が何が解らないかが理解できるので、その後の接し方が変わると思う。
17	若い人がお年寄りを支える方向性はいいかもしれない。
18	スマホやアプリなどで高齢の方が使えるアプリを若い人に教えてもらって覚えると良いかも。写真などを加工する等。
19	スポーツの人は、スポーツをやりに来ているので例えば4階を使うとしたら、スポーツのための会議で使う、などになっている
20	3階の利用者さんが4階を使う（講座に出る）ということは難しいかも
21	3階と4階は一部利用者がカブっていることはありそう。ただ、印象としては各センターがそれぞれ独立して別々な活動、というのが現実かもしれない。
22	3階の利用者さんにとっては、地下のスポーツ教室などはハードすぎて対応できない。⇒ちょっとしたことでハードルが越えられてないだけなのかも。
23	プラザになってスポーツ教室をやるようになったので若い世代の利用が増えたと思う。もともとからきているご高齢の方も変わらず来ているので、健康目的というよりは体育会系の人が多い。
24	プラザ全体でイベントをする。「元気創造祭り」など。
25	生涯学習センターフェスティバル、ケンコウデスカデー、スポーツフェスティバルなどの同時開催。コラボで多世代の交流ができれば面白いのでは。
26	元気創造ウィークや元気創造マンスなど。その期間は全館でイベント。
27	講師の情報の情報共有
28	市内のいろんなお店がいつも必ずプラザに来てる。
29	定期的にいろんなお店を招いて、ウィークリーショップ、マンスリーショップ
30	公園で、ラジオ体操、ヨガとか。
31	全館で対象が異なると思うので、全館同日に幅広い世代を対象としたイベント。いままでにない。
32	市役所が休みの日に、そういった場も借りる。
33	元気創造プラザフェスティバル企画委員会の場を作ってみる。
34	日替わりで販売。キッチンカーや休憩コーナーの前で出張販売。
35	"調理実習室を活用！親子料理教室、エコクッキング講座、離乳食づくり…各階の融合（健診→料理教室、フードロス→…いろんな階での交流を期待）
36	食えることから繋がりが生まれるといい。
37	"音楽講座→2階親子、1階くるみ幼児園の園児、音楽アーティストによる講座の実施
38	子育て中のお母さんに息抜きの時間、リラックスできる時間、同じ境遇の人との交流ができる！
39	各階を巻き込む、複合施設を活かす。
40	"プラザ利用：子供・高齢者に偏っているのではないか。プラザに来たことない人

	は、昼間仕事の人。一人暮らしの人。そういう人たちを引き込めれば…。
41	生涯学習センターは夜は閑散としている。駅前にあれば違うが…。立地的な課題も。
42	コンサートは人を惹きつけられるが、講座だと真面目、立地に課題。
43	"公園の占領△。制約がある。音出し NG。近隣からの苦情。芝生で野外コンサートは→苦情多い。優待チケット？屋外シアター？
44	近隣の苦情に上手に対応できれば実現できそう？
45	スポーツフェスティバルでは広場を使って、ラグビー体験や乗馬体験をしている。屋外でのイベント開催経験あり。
46	食べ物、スポーツを切り口に自然な輪が出てくるといい。
47	土日にフリーマーケットを実施したり、キッチンカーを呼ぶ。東広場の屋根があるモールのスペースを活用できるのではないだろうか。
48	コンビニに近いものがあると便利になると感じる。
49	子ども発達支援センターに来られる親子で帰り際に1階の共有スペースを利用する方がいるが、コンビニがあると良いという声はよく聞く。職員からもコンビニがあると良いという声をよく聞く。
50	コロナ禍の中でなければキッチンカーやカフェをプレイスメイキング、実験として設置してみることもよかったと思う。もう少し状況が改善したらやってみるのも良いと思う。
51	生涯学習センターの施設について、もう少し個人が利用しやすいシステムを考えていければよいのではと思っている。
52	今年はイベントがまったくできていない状況だったが、利用者が気楽に来れる場所にできれば良いと思う。
53	ほかの自治体だと個人で体育施設を利用できるところもある。利用が増えることで利用希望など、実験的にやってみるのも面白いのではないだろうか
54	個人利用が一つのキーワードかもしれない
55	スポーツセンターに関して、貸し出すボール等また、それを収納しておくスペースなどがあると個人利用の人でもフラッと立ち寄れるところになるのではないだろうかと感じる。
56	駐車場・駐輪場を増設してもらえれば良いと思う。(体に障がいがある方や小さいお子さんを連れている利用者の方は市役所の駐車場からプラザに向かうことすら大変であるという声も聞いた。)
57	施設を知ってもらうために月に一回完全に無料にする日を作ってしまうとか、施設に来てから混雑してて利用をあきらめてしまうといったケースがもったいないと思うので、アプリやスマホで現在の利用者状況をリアルタイムで見れたら便利ではないだろうか。

【zoom チャット】

58	職員の間でも、コーヒーの車販売やりたいね！と話したことあります！
59	大学では日替わりでケータリングカーが来たりしていて毎日何料理屋さんが来るのか楽しみにしていました！

60	子ども用に、パックのジュースもあったら良いかもしれません。
61	いろいろな部署の方で共有されてよいですね！
62	個人の居場所というのは大切です
63	意見がいろいろ出ました！
64	直接プラザに関わる色々な方と話せて楽しかったです
65	3時間あっという間でした。
66	いろんな意見を聞くことができて、刺激を受けました
67	他の職場の方と、今後もアイデア交換できる機会を持ちたいです。
68	ほかのフロアの人、交流をしてみたいという希望があったのを聞いて良かった
69	同じ建物の方と初めてのいろいろな職場のかたの意見が聞いて楽しかったです
70	交流できて楽しかったです。
71	防災公園・プラザの改善点をいろんな視点の意見を聞いて貴重な時間になりました。
72	リアルより有効なこともありそうだと思います
73	大変勉強になりました！プラザのことを知る機会にもなったので貴重な3時間でした。
74	色んな考えを聞くことができで良かったです。
75	また、みんなで交流するってのは、どうですか？
76	アイディアを具体化する継続的な作戦会議ができればいいですね！
77	せっかくなので何かできたらいいなと思います。
78	作戦会議いいですね。
79	楽しい企画をこれから一緒にできるといいです
80	市民にもっと身近な施設になるといいなと思いました。
81	職場横断的に使える SNS とかあるといいかな？
82	まずは、日常的に思いついたアイデアとか企画を共有できる SNS あるといいね
83	話をするだけで頭が整理されました。
84	次は企画委員会として集まりませんか？
85	さらに利用しやすい施設を目指していきたいです。
86	プラザフェスティバルいいなと思いました。
87	LINE で共有できるのでは？

② 庁内からの意見収集

「総点検市民会議」や「市民意見募集」、「職員ワークショップ」の開催に合わせて、全庁の職員に提案を求め、2件の提案があった。

総点検講演会を聴いて（提案）

《総論》

・健康×スポーツ、公園×防災、福祉×生涯、健康×公園、音楽×生涯、アート×生涯、子供×高齢者、健常者×高齢者など、センター間の事業が厚みを持って連携するには、担当職員間の日々の業務連携が不可欠です。そこが肝だと思いますが、今はそれができていません。例えば、「元気創造プラザ連携課」みたいな縦串、あるいは横断的なセクションが将来的には必要かと思います。そこでは、市も社協も指定管理者も一堂に席に座って事業を企画する。そうすることで、市長も言及されていた「複合→融合」や「各施設での共通項」の取組が加速度的に進むと思います。元気創造プラザ総合広報誌の作成やホームページの改善、情報コーナー・サイネージの充実化などにもつながります。

・各論の内容等を包括しつつ新しい生活様式の視点も加味した計画として、「元気創造プラザプレイスメイキング計画（第2次プラザ管理運営計画）」のような計画を市民や専門家を巻き込んで取りまとめ、それをもとに各ハード・ソフトの個別事業を計画的に実施する。計画づくりの間も個別事業の「社会実験」をして、トライ＆エラーができたかと思っています。

《各論》

・総点検のきっかけとしての「ワークショップ」は、やる気になればすぐにできると思います。ワークショップ後は「ここが変だよ元気創造プラザ」「ここがもっと使える元気創造プラザ」のようなゆるい座談会を和室などで、お茶でも飲みながら定期的によっても良いかと思っています。

・1階エントランスホールなどの共用部は、お金の集中投資とプレイスメーカーなどの専門家にも入っていただきながら大胆な手術が不可欠かと思っています。ソファやいすをひとつ選ぶにしても慎重にしたい。「神は細部に宿る」と言いますが、利用者は手に触れる細かいところをよく見ていて、そこで、センスが問われます。また、災害時に転用する視点も取り入れる必要があります。

・コロナ禍の新しい生活様式への対応として、今後は野外でのアクティビティの重要性も増加します。公園内に防災機能も持たせたパークハウスや仮設カフェ、あるいは移動販売車の出店誘致、防災キャンプの実施など、パークPFIの視点も取り入れられないでしょうか。ふじみの熱を生かした足湯コーナーがあってもよいかと思っています。公園内の建築制限は緩和傾向にあると思います。

・起爆剤としては、年に1回あるいは数年に1回の頻度で「元気創造プラザ館まつり」を開催するのも有効な手段だと思います。プラザのオープニングセレモニーのようなイメージで、全館のお祭りをして、その1コマで、みんなで防災訓練もいいと思います。

・月に1回くらいは、メインアリーナやプール、生涯学習センターホール映画上映などの無料開放日を作っても良いのではと思います。児童館のような子どもの居場所づくりにもなろうかと思っています。

・また、大人向けの「体力測定会」をスポーツセンターで大々的に開催してみてもどうで

しょうか。小中学生は学校でやっていますが、大人になると職場での健康診断しかありません。握力、ボール投げ、柔軟性、垂直飛び、50メートル走、持久走など自身の体力の衰えを知ること、スポーツ教室への参加や継続的な市民の健康活動、将来的な医療費削減にも繋がっていくと思います。

・最後に、元気創造プラザ職員の一体性を出すために何か「統一のユニフォーム」が作れたらと思います。センターごとの色分けなどで。武蔵野プレイスでは、ベストを着用しています。また、元気創造プラザゆるキャラも作れたらと思います。

三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検を契機とした提案

1 災害時の危険性を抑制する車止めや案内看板の設置

(1)現状：大規模災害発生時に三鷹市外から大型を含む多くの緊急車両が到着した場合、立体式になっている当該施設の構造に気が付かないことが予想される。

(2)課題：災害時で市職員も混乱状況であった場合、それら多くの車両が一斉に中央広場（体育館屋上）へ進入しないようにするにはどうすればよいか。

(3)方策：

①車止め（脱却式）の設置

車椅子などの利用者に影響のないような幅で脱却式の車止めに設置する。これにより、事情を知らない車両の進入を抑制する。設置候補位置は中央広場へ繋がる園路入り口の2ヶ所（東広場と西広場）。

②進入を抑制する案内看板の設置

「立体式施設のため車両の進入禁止（管理用を除く）」と表示した案内看板を設置する。これにより、事情を知らない車両に対してその理由を理解してもらう。

(4)懸案事項：通常管理用車両が進入する場合、車止めをその都度脱却しなければならなくなる。

2 Park-PFI 制度を活用した民間事業者によるカフェ等の併設と維持管理運営

(1)現状：当該施設を整備した当時は、公園施設において収益事業を行うことはできなかった

(2)課題：現在、当該施設の利用者から特に要望が強いカフェなどの飲食施設をこれから設置するにはどうすればよいか。

(3)方策：都市公園法改正（H29年5月）によって「公園利用者の利便向上に資する公園施設の設置等を一体的に行う者を公募により選定する Park-PFI 制度」が確立した。そこで、この制度を活用して民間事業者を公募して一括管理運営を行うこととし、カフェなどの飲食施設を実現させる。

(4)懸案事項：

①カフェなどを設置するために当該施設を改変した場合、整備当時に充当された国庫補助金の対応が不明である。

②三鷹市スポーツと文化財団の公園部分の指定管理業務が減となる。

(2) 事務局会議の開催

①	令和2年6月17日	コロナ禍における総点検の進め方について
1	日程 令和2年6月17日(水) 午後1時30分～3時(オンラインミーティング)	
2	出席者 三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当2名 三鷹ネットワーク大学推進機構 事務局長・担当2名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名	
3	検討内容	
(1)令和2年度の「総点検市民会議」開催内容について		
① 議論のための資料の作成方法について		
・コロナの影響により三鷹市の方針として、少なくとも10月くらいまではオンライン・ベース(または紙など)を活用し、それ以降はリアルとオンラインを両睨みで検討していく。		
・コロナ禍において、大人数で集まることが難しいため、市民に対して市から提案を行い、意見をもらう形での展開を想定。		
・そのための「市民参加資料」を作成する必要がある。		
「市民参加資料」の作成に当たり、オンラインでのワークショップとなった場合、どこまでできるのかを、まずは専門家である青木将幸氏に相談するところから始めたい。		
・「市民参加資料」の作成に当たっては、市からの提案に結論の選択肢を設けるのか、原案を出して意見を求めるのか、また現実性が高い案を出すのか、アイデアを付け加えられやすいようなものにするのか、青木氏への相談をもとに作成に取り掛かりたい。		
② 「総点検市民会議」の開催手法について		
・市民からの意見収集に当たっては、オンライン、紙、それぞれに適した手法を選択する。		
・また、スマートフォン等の活用によって、これまで意見を得ることができなかった層からの意見収集にも期待したい。		
・リアルな場でのワークショップは年度末、または年明け頃の実施を想定。(※NW大では最大20名など、施設ごとの規定に応じた人数での実施となる。実施時期の設定に当たっては、11月の予算要求や報告書の締め切りを考慮する。)		
・オンライン・ワークショップの展開に期待はできるが、市が行う事業であるため、セキュリティやリスクを最大限考慮した上での展開を図る必要がある。		
・三鷹ネットワーク大学推進機構の協力可能性		
※QRコードを活用したGoogleフォームでの意見収集		
※ZOOMでの講座録画とYouTubeでのクローズド配信		
(2)令和2年度のスケジュールについて		
・(株)ソシオ エンジン・アソシエイツの原案をもとに次回ミーティング(6月30日)で協議		
(3)今後の進め方について		
①中村教授を交えた打ち合わせについて		

中村教授、梶橋准教授と事務局での、タクティカルアーバニズムに関する勉強会講演を検討（1時間講演、1時間質疑応答）⇒(株)ソシオ エンジン・アソシエイツ側で調整

②青木将幸氏との打ち合わせについて

オンラインの場合最大何人までの大人数でできるか、気を付けるべきことは何かなどについてオンラインでの打ち合わせを調整（開催に当たってはリアルな場、オンライン、共に可能性を模索）⇒(株)ソシオ エンジン・アソシエイツ側で調整

③事務レベルの検討について

次回ミーティング日程：6月30日（火）13時半～14時半

次回ミーティング アジェンダ：ア)コロナに対応した年間計画の見直し イ)手法の変更に伴う予算の確認 ウ)その他、中村先生、青木氏他との日程調整状況等」

②	令和2年6月30日	総点検市民会議の進め方について
1	日程 令和2年6月30日（火）午後1時30分～2時30分（オンラインミーティング）	
2	出席者 三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当2名 三鷹ネットワーク大学推進機構 事務局長・担当2名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名	
3	検討内容	
(1)	令和2年度の「総点検市民会議」開催内容の見直しについて	
	・コロナ禍に対応するロードマップの変更 ・オンライン手法について検討し、感染状況に合わせて今後の方向性を検討	
(2)	令和2年度の「総点検市民会議」予算の見直しについて	
	・予算については内訳の変更だけなのでNW大としては問題ない ・当初、リアルでの小ワークショップを想定していた実施内容を「オンライン・紙によるヒアリングに関する資料作成及び実施対応」に振り替え、内訳を確認しながら進める	
(3)	中村教授、青木氏とのミーティング日程の確認と協議内容について	
①	協議内容（案）	
	ア) 現状確認 イ) 今後の進め方について ウ) 推進手法について エ) 具体的スケジュール	
②	中村教授への確認事項	
	実施手法として、紙かオンラインという状況になっている中、タクティカルアーバニズムの手法を取ることが可能なかどうか。	
③	青木氏への確認事項	
	どのような手法でオンラインの市民参加を実現することができるのか。	
④	実施の方向性	
	・オンラインで梶橋先生の話聞き、zoomを活用し、少人数（5～20名程度）で討議するような形が現実的であると思われる。	

- ・市民参加資料については、いくつかのトピックスに合わせて章立てし、今の様子の写真、利用人数などの数値、グラフ、利用者の主だった意見などの現状を示すページ、それらの現状を踏まえて変えようとしている市の考えを示すページ、これら両面に関する意見を聞いていく形となるのではないかな。
- ・市からの提案に対して市民の意見を収集して肉付けをしていく形であれば、オンラインでも対応ができるのではないかな。

⑤神戸大学 槻橋准教授との打ち合わせ日程調整と内容や手法等について

⇒中村教授との会議にて協議

⑥その他

※参考：三鷹 NW 大学のオンライン講座の実績より

- ・操作方法に違いがあるため、うまくは入れないなど、参加者の混乱があった。主催者の zoom の習熟度、参加者へのルールの周知など、事前の準備がとても大切だと思われる。
- ・細かい機能を使いこなせないようだ。アストロノミーパブは 5 名の個別の研究員と触れ合うということを行ったが、入退室に戸惑った。待機室の人を OK できなかったなど。
- ・第 1 部の聴講は 80 名で行ったが、ここは混乱がなかった。講師とアドミを分ける必要がある。

③	令和 2 年 7 月 14 日	デジタル市民参加・ミニワークショップの手法検討
1	日程 令和 2 年 7 月 14 日（火）午後 3 時半～4 時半（オンラインミーティング）	
2	出席者 三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当 1 名 三鷹ネットワーク大学推進機構 担当 1 名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3 名	
3	検討内容	
(1)	タクティカルアーバニズムについての勉強会とデジタル市民参加の方法論の検討について	
	・槻橋准教授の回については 8 月上旬で中村先生より日程調整中 ・ゲストとして泉山氏にもヒアリング予定。中村教授より日程調整中。	
(2)	「ミニワークショップ」について	
	・オンラインでの実施を増やしてもよいが、オンラインに対応できない層をきちんと押さえていく必要がある。 ・体協では加盟団体に対してアンケートを行っており、10 数団体より回答を得ている。 ・起承転結による進め方を考えると、「起・承」の部分は個別対応にならざるを得ず、いわゆる市民参加的なものは、「転・結」の部分になるのではないかなと思われる。 ・状況を見ながらではあるが、三鷹ネットワーク大学で 4 部屋（各部屋 5～10 名の参加者。ファシリテート 1 名、係員 1 名）、プラザで 4 部屋など、多くの部屋を活用し、青木氏にファシリテートしてもらい形も考えられるのではないかな。 ・ミニワークショップを先に行い、全体コンセプトを議論。その内容をもとに、討議要項を	

作成し、さらにそれに関する意見を市民から聞くという流れにしてはどうか。

- ・コロナ禍で活動がまだ再開できていないということもあり、スポーツ・生涯学習等の団体にアプローチできていない。
- ・コロナ禍の中、「プラザの今後」を検討するということについて、コロナ前と同じ議論をすることが難しくなっている面があるのではないか。
- ・審議会及び利用者懇談会に意見を聞くことは可能。利用者懇談会では提言提出の年度なので、協調してゆきたい。
- ・9月30日に青木氏が三鷹に来る予定となっているため、この前後で何か展開することが考えられるのではないか。(ミニワークショップを10月1日に行うなどが可能か)。
- ・今年度の実施は難しいかもしれないが、「コンセプト、CI、魅力づくり」といった核心となるテーマの議論を行うキーパーソンチームのようなコアメンバーが構成できるとよいと考える。
- ・市民参加資料については三鷹市で検討を行う。職員同士の議論の場も設定する予定。

④	令和2年9月1日	「縦連携講座」「職員ワークショップ」の手法検討
1	日程	令和2年9月1日(火) 午後3時半～5時(オンラインミーティング)
2	出席者	三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当2名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名
3	検討内容	(1)来年度の「縦連携講座」開催の検討 ・健康推進課、福祉センター、スポーツ担当により、合同で企画を行う等を想定。 ・防災訓練のイベント同時開催については、防災担当部署に、合同講座に対する協力を呼び掛ける形で推進する。 ・合同講座は単発または3回程度の連続講座により、オンライン併用も考慮に入れて展開する形を想定。 ・利害関係を越えた形で、施設全体の使用方法について意見を出し合うために、市民や学識、職員の参加による「プレイスメーカー会議」のようなものを設定できないか。 (2)今年度の連続講座開催について ・助言者である中村教授、槻橋准教授に依頼し、市民向け連続講座(3回・市民向けに各回1時間程度を想定)を行い、最後に青木氏のファシリテーションによるアウトプットを図る。青木氏には全ての回に参加していただき、情報を共有していただく。 ・オンライン講座について、スポーツ、生涯学習の団体への声掛けを行う。 ・年度後半であればオンラインで会場に集まっていただく形でのハイブリッド講座も実施可能であると思われる ・今後はプラザにこれまで関わってこなかった方にも関わっていただくことも検討したい。 例：商工会マップをつくっている杏林大ゼミの方(学生は卒業後関わりが途絶えることが

課題)、農業祭の中心メンバー（40代）JCの方など）

(3)全体方針

- ・まずは縦連携講座の構築から実施する。
- ・施設内に勤務する職員も関わる形での開催を検討する。

(4)その他

- ・来年度以降、農業祭やガーデニングフェスタとの連携も検討。
- ・スポーツフェスティバルと「ケンコウコウデスカデー」を一緒に展開しているが、これもうくゆくは全館的な祭りに繋げられる可能性があるのではないかな。

(5)総点検改善・改修費について

- ・市民参加資料の中に、市民アンケート等の意見に基づき優先順位をつけて改修する項目も書き込み、改修を行う。
- ・共有スペースの議論に関しては、今年度はコロナの影響でスペースの使用禁止されているため、展開が難しい。来年度も難しいかもしれないが、この項目については、予算、議論、共に来年度に送ることとする。
- ・市長が早期導入を期待するボランティアポイントも視野に入れた展開とする。
- ・今年度予算の使途は、既に意見がある内容に基づき、市民満足度改の改善につながるための対応としたいと考えている。

(6)今年度中の到達目標について

- ・ミニワークショップの展開は事実上難しいため、助言者による連続講座時に参加者との意見交換を厚くすることで代替とする。
- ・市民参加資料の公表後に総点検市民会議や広報での意見募集を行う。
- ・年明けからは市民からの意見をもとに、改修工事に着手する。

(7)10月1日の青木氏との打ち合わせについて

- ・オンラインワークショップの手法に関する議論を行う。（三鷹ネットワーク大学会議室での実施を想定）
- ・研修的ワークショップとして展開も検討する。
- ・市民参加資料についても青木氏の意見を聞き、これを下敷きとした議論を行うための手法について意見をうかがうことも考えられる。

⑤	令和2年11月4日	連続講演会の内容検討
1	日程 令和2年11月4日（水）午前9時半～10時半（オンラインミーティング）	
2	出席者 三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当1名 三鷹ネットワーク大学推進機構 担当1名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名	
3	検討内容	
	(1)市長と中村教授との面談内容の共有	

- ・職員が市民に向き合っていく形を作ることが大切であるが、研修的な枠組みで行うなど、仕事として位置づけていかないと難しいのではないかと。
- ・市長としては、プラザを融合施設として、10 年、20 年スパンで生涯学習の流れへとつなげていくことができると考えている。

(2)市民向け講演会について

- ・会場での受講申し込みは、往復はがきにより、芸術文化課が受付を行う。ウェブでの受講申し込みは Peatix により三鷹ネットワーク大学が受付を行う。
- ・広報、当日の進行について確認。
- ・配布資料等を参加者以外の市民に公開することについて中村教授、槻橋准教授に確認。
- ・河村市長、中村教授はそれぞれ 1 台ずつパソコンを使用（三鷹市にて準備）。
- ・司会はソシオエンジン側が担い、リアルとウェブをつなぐ。
- ・18 日の会場の受講者は中村先生がケアし、ウェブ上の受講者を青木氏がファシリテートする形とする。（手法について青木氏と別途協議）
- ・当日の役割分担について
 ※会場準備、参加者受付、資料配布：三鷹市
 ※ウェブ受講者受付：三鷹ネットワーク大学（サポート：ソシオエンジン）
 ※会場に出た質問をチャットに記載するなどオンライン対応：ソシオエンジン（元気創造プラザ会場にて対応）※ソシオエンジン操作用パソコンは自前のものを用意
 ※11/19 13-14 で事前テストを実施。
 ※助言者会議では次年度の展開について検討。（接続テストなどもこの時間に行う）

⑥	令和 2 年 12 月 8 日	講演会当日運営について
1	日程	令和 2 年 12 月 8 日（火）午後 3 時～4 時（オンラインミーティング）
2	出席者	三鷹市 スポーツと文化部調整担当部長・芸術文化課長・担当 1 名 三鷹ネットワーク大学推進機構 担当 1 名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3 名
3	検討内容	
(1)	第 1 回 12 月 15 日について	
		・当日の会場設営は、15 時 45 分から開始。助言者会議が 17 時 45 分から始まるので開始 30 分前には設営を完了する。 ・市長は 18 時 45 分頃に会場入り予定。 ・ソシオエンジンアソシエイツは司会、会場、PC 操作を担当する 司会⇒進行表については三鷹市側から追記・修正したものを提供 会場⇒質問やアンケートの回収。受付・検温については三鷹市側で担当。 PC 担当⇒メインスピーカーの画面へのピン留め等、細かな作業が発生する予定。
(2)	第 2 回 12 月 18 日について	
		・当日の会場設営は、15 時 45 分から開始。ソシオエンジンは、15 時まで別のオンラインの打ち合わせが入っている関係で、三鷹にて会議室を借りることになった。

- ・中村先生の入り時間は、ソシオエンジンが確認し三鷹市に伝える。
- ・ソシオエンジンアソシエイツは司会、会場、PC操作を担当する
司会⇒進行表については三鷹市側から追記・修正したものを提供
会場⇒質問やアンケートの回収。受付・検温については三鷹市側で担当。
PC担当⇒メインスピーカーの画面へのピン留め等、細かな作業が発生する予定。
- ・会場の質疑応答は、カードに書いていただき回収して、中村教授に渡す。
- ・ディスカッションについてはホストを青木氏に渡す。
- ・ディスカッション時、三鷹市側からオンラインについても対応をする。
- ・ディスカッションのオンラインと会場の終了については、タイムキープをチャットなどで伝えつつ連携

⑦	令和3年2月9日	総点検市民会議開催に向けた事前打ち合わせ
1	日程 令和3年2月9日（火）午後2時～3時（オンラインミーティング）	
2	出席者 三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当1名 三鷹ネットワーク大学推進機構 担当1名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 4名	
3	検討内容 総点検市民会議の当日の進め方及び分担、当日までに必要とされる作業及び分担、インターネット接続に関する確認を行った	

⑧	令和3年3月10日	報告書のまとめ方について
1	日程 令和3年3月10日（水）午前11時20分～12時20分（オンラインミーティング）	
2	出席者 三鷹市 スポーツと文化部長・同調整担当部長・芸術文化課長・担当1名 三鷹ネットワーク大学推進機構 担当1名 (株)ソシオ エンジン・アソシエイツ 3名	
3	検討内容 (1) 令和2年度総点検報告書について ・三鷹市側がまとめている『三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検「市民参加のための論点整理」～「施設運営の基本的な考え方」まとめに向けて～』及び、今後の「施設運営の基本的な考え方」に反映した意見等の内容をまとめたものとする。 ・報告書の内容（案） ①助言者会議メンバーからの助言⇒毎回の議事録を収録 ②12月の連続講演会の内容／資料と映像データ 12月の連続講演会で参加した市民から出た意見の内容 ③1月の職員ワークショップで出た意見の内容及び庁内からの職員意見 ④2月の総点検市民会議で出た意見の内容及び映像データ ⑤2月の意見募集で出た意見 ⑥その他、総点検に関連して市民から提出・提案のあった内容	

IV 資料

1 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 槻橋修准教授からの話題提供

(1)テーマ

「タクティカルアプローチ～タクティカルアーバニズム、プレイスメイキングの手法について～」

(2)日時

令和2年8月7日（金）午前10時～12時

(3)内容及び資料

別紙1、別紙2のとおり

2 「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検」講演会

公共施設を魅力的な場にするために 参加者募集チラシ
別紙3のとおり

3 「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ総点検市民会議」チラシ

別紙4のとおり